

国語国文学科専門科目（平成30年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放	
基幹科目	10010		国文学概論	②	30	1・2	前期	佐々木紀一	○	古典 近現代	教養 教養 教養 教養	
	10020		国語学概論	②	30	1・2	前期	高橋 永行	○			
	10040		国文学史一	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○			
	10050		国文学史二	2	30	1・2	後期	馬場 重行	○			
基礎科目	共通		国文学基礎演習一	4	60	1	通年	岩原 真代	④			
			国文学基礎演習二	4	60	1	通年	齋藤 奈美				
			国文学基礎演習三	4	60	1	通年	佐々木紀一				
			国文学基礎演習四	4	60	1	通年	岡 英里奈				
			国文学基礎演習五	4	60	1	通年	馬場 重行				
			国語学基礎演習一	4	60	1	通年	山本 淳				
			国語学基礎演習二	4	60	1	通年	高橋 永行				
		10190	10191	国語表現法（月曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年				高橋 永行
	10190	10192	国語表現法（水曜Ⅱ限）	4	60	1・2	通年	山本 淳				
	国文学	10210		国文学講読一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	○	古典 古典 古典 近現代 近現代 古典 古典 近現代 近現代	
		10220		国文学講読二	2	30	1・2	前期	齋藤 奈美			
		10230		国文学講読三	2	30	1・2	前期	佐々木紀一			
		10240		国文学講読四	2	30	1・2	前期	岡 英里奈			
		10250		国文学講読五	2	30	1・2	前期	馬場 重行			
		10260		国文学講読六	2	30	1・2	後期	岩原 真代			
		10270		国文学講読七	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美			
		10280		国文学講読八	2	30	1・2	後期	佐々木紀一			
		10290		国文学講読九	2	30	1・2	後期	岡 英里奈			
		10300		国文学講読十	2	30	1・2	後期	馬場 重行			
	国語学	10410		国文学特講一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	○	8・9月開講	
10420			国文学特講二	2	30	1・2	後期	岩原 真代				
10430			国文学特講三	2	30	1・2	後期	佐々木紀一				
10440			国文学特講四	2	30	1・2	前期	梅津 保一				
10450			国文学特講五	2	30	1・2	前期	馬場 重行				
漢文学	10510		国語学講読一	2	30	1・2	前期	山本 淳	○	8・9月開講		
	10520		国語学講読二	2	30	1・2	前期	高橋 永行				
	10530		国語学講読三	2	30	1・2	後期	山本 淳				
	10540		国語学講読四	2	30	1・2	後期	高橋 永行				
	10550		国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳				
	10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣				
展開科目	共通	10600	漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	○			
		10610	漢文学講読一	2	30	1・2	前期	渡部東一郎				
		10620	漢文学講読二	2	30	1・2	後期	渡部東一郎				
		10650	漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎				
		10661	漢文学専門ゼミ一	2	30	1	後期	渡部東一郎				
		10661	漢文学専門ゼミ二	2	30	2	前期	渡部東一郎				
関連科目	共通	10710	国文学演習一	4	60	2	通年	岩原 真代	④	(応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用)		
		10720	国文学演習二	4	60	2	通年	石川 秀巳				
		10730	国文学演習三	4	60	2	通年	佐々木紀一				
		10740	国文学演習四	4	60	2	通年	岡 英里奈				
		10741	国文学演習五	4	60	2	通年	馬場 重行				
		10750	国語学演習一	4	60	2	通年	山本 淳				
		10760	国語学演習二	4	60	2	通年	高橋 永行				
		10780	文献学演習	4	60	2	通年	北口己津子				
		10790	教育文化論演習	4	60	2	通年	村瀬 桃子				
		10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年				我彦 芳柳
10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳					
共通	10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	岩原 真代	○	2月開講 [日]と合同 開講せず	教養 教養	
	10920		有職故実	2	30	1・2	集中	鈴木 眞弓				
	10930		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明				
	10940		書誌学	2	30	1・2	前期	北口己津子				
	10950		山形の文学	2	30	1・2	前期	梅津 保一				
	10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也				
	10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子				
11010		卒業研究	4		2							

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

国語国文学科専門科目（平成31年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放				
基幹科目	10010		国文学概論	②	30	1・2	前期	佐々木紀一	○	古典 近現代	教養 教養 教養				
	10020		国語概論	②	30	1・2	前期	高橋 永行	○						
	10040		国文学史一	2	30	1・2	後期	岩原 真代	○						
	10050		国文学史二	2	30	1・2	後期	馬場 重行	○						
共通	10110		国文学基礎演習一	4	60	1	通年	岩原 真代	④	いずれか一つ履修					
	10120		国文学基礎演習二	4	60	1	通年	齋藤 奈美							
	10130		国文学基礎演習三	4	60	1	通年	佐々木紀一							
	10140	10141	国文学基礎演習四（火曜Ⅳ限）	4	60	1	通年	岡 英里奈							
	10140	10142	国文学基礎演習四（木曜Ⅲ限）	4	60	1	通年	岡 英里奈							
	10150		国語学基礎演習五	4	60	1	通年	馬場 重行							
	10160		国語学基礎演習一	4	60	1	通年	山本 淳							
	10170		国語学基礎演習二	4	60	1	通年	高橋 永行							
	10190	10191	国語表現法（月曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年	高橋 永行							
	10190	10192	国語表現法（水曜Ⅱ限）									山本 淳			
	国文学	10210		国文学講読一	2	30	1・2	前期				岩原 真代	②	古典 古典 古典 近現代 近現代 古典 古典 近現代 近現代	
		10220		国文学講読二	2	30	1・2	前期				齋藤 奈美			
		10230		国文学講読三	2	30	1・2	前期				佐々木紀一			
		10240		国文学講読四	2	30	1・2	前期				岡 英里奈			
10250			国文学講読五	2	30	1・2	前期	馬場 重行							
10260			国文学講読六	2	30	1・2	後期	岩原 真代							
10270			国文学講読七	2	30	1・2	後期	齋藤 奈美							
10280			国文学講読八	2	30	1・2	後期	佐々木紀一							
10290			国文学講読九	2	30	1・2	後期	岡 英里奈							
10300			国文学講読十	2	30	1・2	後期	馬場 重行							
国語学	10410		国文学特講一	2	30	1・2	前期	岩原 真代	②						
	10420		国文学特講二	2	30	1・2	後期	岩原 真代							
	10430		国文学特講三	2	30	1・2	後期	佐々木紀一							
	10440		国文学特講四	2	30	1・2	前期	梅津 保一							
	10450		国文学特講五	2	30	1・2	前期	馬場 重行							
漢文学	10510		国語学講読一	2	30	1・2	前期	山本 淳	④	8・9月開講					
	10520		国語学講読二	2	30	1・2	前期	高橋 永行							
	10530		国語学講読三	2	30	1・2	後期	山本 淳							
	10540		国語学講読四	2	30	1・2	後期	高橋 永行							
	10550		国語学特講	2	30	1・2	前期	山本 淳							
	10560		日本語文書・表現プログラム	2	30	1・2	集中	田中 宣廣							
展開科目	10600		漢文学概説	2	30	1・2	前期	渡部東一郎	②						
	10610		漢文学講読一	2	30	1・2	前期	渡部東一郎							
	10620		漢文学講読二	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
	10650		漢文学特講	2	30	1・2	後期	渡部東一郎							
	10660		漢文学専門ゼミ一	2	30	1	後期	渡部東一郎							
	10660		漢文学専門ゼミ二	2	30	2	前期	渡部東一郎							
共通			国文学演習一	4	60	2	通年	岩原 真代	④	(応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用) (応用)					
			国文学演習二	4	60	2	通年	石川 秀巳							
			国文学演習三	4	60	2	通年	佐々木紀一							
			国文学演習四	4	60	2	通年	岡 英里奈							
			国文学演習五	4	60	2	通年	馬場 重行							
			国語学演習一	4	60	2	通年	山本 淳							
			国語学演習二	4	60	2	通年	高橋 永行							
			図書館文化論演習 教育文化論演習	4 4	60 60	2 2	通年 通年	北口己津子 村瀬 桃子							
共通	10800	10801	書道（木曜Ⅲ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳	④	いずれか一つ履修	教養 教養				
	10800	10802	書道（木曜Ⅳ限）	4	60	1・2	通年	我彦 芳柳							
	10910		伝統文化論	2	30	1・2	前期	岩原 真代							
	10920		有職故実	2	30	1・2	集中	鈴木 眞弓							
	10930		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明							
	10950		山形の文学	2	30	1・2	前期	梅津 保一							
	10960		東洋思想	2	30	1・2	前期	小野 卓也							
	10970		現代社会と教育問題	2	30	1・2	後期	村瀬 桃子							
	11110		英米文化論	2	30	1・2	前期	小林 亜希							
	11120	11121	古文書学	2	30	1・2	後期	原 淳一郎							
	11120	11122	古文書学									山田彩起子			
	11130		日本史概説一	2	30	1・2	前期	吉田 歆							
	11140		日本史概説二	2	30	1・2	前期	菌部 寿樹							
	11150		日本史概説三	2	30	1・2	前期	小林 文雄							
11160		日本文化史	2	30	1・2	後期	原 淳一郎								
11170		コミュニケーションデザイン論	2	30	1・2	後期	小池 隆太								
		卒業研究	4		2						教養				

(注) ○数字は必修単位、○数字は選択必修単位  
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる  
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：国文学概論（10010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
佐々木 紀一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国文学概論の対象は限りなく広く、読み方も複雑を極めるが、文学の構成、成立、技法、批評法について、全般的に理解を深める。
授業計画	<p>第1回 今、そしてこれからの世界で、文学を読む意味（「有益かつ快樂」？）</p> <p>第2回 文学と文学以外（文学は言語の特別な構築物？）</p> <p>第3回 国文学の対象（範囲と価値）</p> <p>第4回 国文学の諸ジャンル</p> <p>第5回 国文学の成立（古典）</p> <p>第6回 国文学の成立（近代文学 - 作家論について）</p> <p>第7回 作家なんて（ ）に入れろ！（1）ロシア・フォルマリズム、ニュークリティシズム、神話批評</p> <p>第8回 作家なんて（ ）に入れろ！（2）受容理論、解釈学</p> <p>第9回 作家なんて（ ）に入れろ！（3）記号論、脱構築</p> <p>第10回 作家なんて（ ）に入れろ！（4）精神分析批評</p> <p>第11回 全てを歴史化しろ！（1）ポスト・コロニアル、フェミニズム批評</p> <p>第12回 全てを歴史化しろ！（2）ニューヒストリシズム</p> <p>第13回 文学の技巧（1）ロッジ『小説の技巧』から（1）</p> <p>第14回 文学の技巧（2）ロッジ『小説の技巧』から（2）</p> <p>第15回 再び（国）文学を読む意味</p>
授業概要	前半は文学を読む意味、文学の対象（範囲）、価値、成立について、後半は批評の理論、技巧について学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	参考書の廣野さんの著書の精読 作品は指定しませんが、各ジャンルの文学作品を読む
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典文学者ですので、古典を中心に上げます。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	廣野由美子「批評理論入門ー『フランケンシュタイン』解剖講義」（中公新書） D. ロッジ『小説の技巧』が面白く、分かりやすいです。
備考	

講義科目名称：国語学概論（10020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
高橋 永行			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	国語学は、日本語ということばそのものを研究対象とする学問分野です。この授業はその入門的性格をもつもので、現代日本語の構造や体系についての概要を学びます。		
授業計画	第1回	人間の言語の特徴と機能（導入） 言語の機能	
	第2回	日本語の語彙1 ことばと社会	
	第3回	日本語の語彙2 表現とイメージ	
	第4回	日本語の語彙3 語彙とは何か 体系と量	
	第5回	日本語の語彙4 語彙の出自と分類	
	第6回	文字表記1 文字の種類 規範と多様	
	第7回	文字表記2 漢字	
	第8回	文字表記3 ひらがな	
	第9回	文字表記4 カタカナ	
	第10回	文字表記5 ローマ字	
	第11回	文字表記6 国語政策と表記法	
	第12回	日本語の位置 世界の言語と日本語の違い	
	第13回	日本語の系統 言語系統表	
	第14回	類型論から見た日本語 言語の構造	
	第15回	まとめ	
授業概要	今年は、言語の特質、日本語の語彙、表記法、世界の中での日本語の位置を取り上げて講義します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配付資料を整理して、要点を理解するように努めてください。		
テキスト	『新 ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 1, 800円＋税 さわらび会購買部で求めてください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	まずは「ことばに対する素朴な疑問」を持つことから始めましょう。テキストと同様にことばに関する新聞報道も取り上げる場合があります。		
評価方法	試験90%、授業への参加度10%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：国文学史一（10040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代から近世にかけての文学史を概観しながら、名作・名文を読解する。国文学史を通して、日本人の精神史をたどり、各作品の主題と意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 国文学史概説</p> <p>第2回 上代文学（古事記）</p> <p>第3回 上代文学（風土記、日本書紀）</p> <p>第4回 上代文学（萬葉集1）</p> <p>第5回 上代文学（萬葉集2、懷風藻その他）</p> <p>第6回 中古文学（漢詩文）</p> <p>第7回 中古文学（和歌1）</p> <p>第8回 中古文学（和歌2、歌謡）</p> <p>第9回 中古文学（物語）</p> <p>第10回 中古文学（後期物語、歴史物語）</p> <p>第11回 中古文学（説話、日記）</p> <p>第12回 中世文学（和歌、連歌、歌謡）</p> <p>第13回 中世文学（漢詩文、説話、軍記物語）</p> <p>第14回 中世文学（物語、日記、劇文学）</p> <p>第15回 近世文学（和歌、狂歌、俳諧）</p>
授業概要	テキストに沿って、上代から近世に至る文学作品を年代順に読解していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から文学作品がどのように生まれ、後世の作品に影響を及ぼしていったのかを意識しながら読んでみてください。
テキスト	久保田淳編『日本文学史』おうふう、1900円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本文学史を通して日本とは何かを考えます。古典を知ることが現代に生きる我々自身を考えることに通じます。古典の名作に親しむことで日本人の精神のルーツと変遷を確かめてみてください。
評価方法	期末試験（80％）、授業への参加度（20％）で評価する。
参考文献	久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史』全10巻、岩波書店 加藤周一『日本文学史序説 上・下』（加藤周一著作集4・5）筑摩書房
備考	

講義科目名称：国文学史二（10050）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
馬場 重行			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	① 日本の近代小説の歴史について、最低限の知識習得を目指します。 ② 幅広い作家・作品への興味や関心を高めます。
授業計画	<p>第1回 「文学史」概説－「文学史」の可能性/不可能性 近代日本文学の史的展開の基本問題について概説。</p> <p>第2回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第1回（明治文学以前） 明治文学の始動期について、啓蒙期の文学運動などを解説。</p> <p>第3回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第2回（明治文学の展開①） 「小説神髓」の歴史的意義、硯友社の活動などを解説。</p> <p>第4回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第3回（明治文学の展開②） 擬古典主義の文学、浪漫主義の文学など、日清戦争前後の文学について解説。</p> <p>第5回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第4回（明治文学の展開③） 自然主義の文学について解説。</p> <p>第6回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第5回（明治文学の展開④） 反自然主義の文学について解説。</p> <p>第7回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第6回（大正文学の展開①） 「白樺」派の文学、新現実主義の文学について解説。</p> <p>第8回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第7回（大正文学の展開②） 「新思潮」派、「奇蹟」派の文学について解説。</p> <p>第9回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第8回（昭和文学の展開①） プロレタリア文学について解説。</p> <p>第10回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第9回（昭和文学の展開②） 新感覚派の文学について解説。</p> <p>第11回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第10回（昭和文学の展開③） 文芸復興期の文学、戦前・戦中の文学について解説。</p> <p>第12回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第11回（昭和文学の展開④） 敗戦後の文学について解説。</p> <p>第13回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第12回（昭和文学の展開⑤） 「近代文学」派から「第三の新人」までの文学を解説。</p> <p>第14回 「近代文学系統図」(自主教材)による近代小説の系統的展開の第13回（昭和文学から現代文学へ） 昭和から平成へ至る文学活動を解説。</p> <p>第15回 総括 現在の文学の状況を、映像表現など他のジャンルと組み合わせて解説。</p>
授業概要	明治以降から現代までの国文学の流れを小説作品中心に解説します。基礎的教養としての近・現代作家、作品、文芸思潮、文学結社などを覚えるという＜文学史もどき＞の授業が中心ですが、それらの基礎知識を習得しつつ、近代の小説作品の問題性、これからの文学のあり方など、本来の「文学史」を考えたいと願っています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	できるだけ多くの作品を読むよう努めてください。
テキスト	自主教材用のプリントを配布します。参考資料は講義のなかで適宜指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校時代に使用した「国語便覧」の類があれば用意して下さい。興味を引くような作家・作品の話も多く取り入れます。
評価方法	期末試験（60％）、小テスト（20％）、授業への積極的な参加度（20％）
参考文献	講義中に適宜紹介予定。
備考	

講義科目名称：国文学基礎演習一(10110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>平安文学の世界を探求します。          前期は、日記文学『更級日記』を通読し、平安時代の一女性の思考と生き方を理解します。          後期は、『源氏物語』『若紫』巻の輪読と研究発表を通して、物語作品に親しみ、古典文学研究の基礎的な方法とプレゼンテーション能力を身に付けます。「若紫」巻は主人公の光源氏が後の愛妻となる若紫を見初め、その引取りと養育を熱望する巻で、物語全体の基礎となる要素を含んでいます。</p>		
授業計画	第1回	平安文学概説	
	第2回	古代文学史	
	第3回	平安朝日記文学の世界	
	第4回	『更級日記』の読解－物語と孝標女－	
	第5回	『更級日記』の読解－京への旅立ち～富士山－	
	第6回	『更級日記』の読解－富士川の伝説～乳母、侍従の大納言の御むすめの死－	
	第7回	『更級日記』の読解－『源氏物語』耽読～月夜の語り－	
	第8回	『更級日記』の読解－火の事～有明の月－	
	第9回	『更級日記』の読解－帰京～太秦参籠－	
	第10回	『更級日記』の読解－萩の枯葉～西山に住む－	
	第11回	『更級日記』の読解－母の出家、父の隠遁～物語の夢ついで－	
	第12回	『更級日記』の読解－宮家に再出仕～初瀬詣で－	
	第13回	『更級日記』の読解－鞍馬の春秋～二人の友と－	
	第14回	『更級日記』の読解－筑前の友～阿弥陀仏来迎の夢－	
	第15回	『更級日記』の読解－涙と孤独の日々、まとめ－	
	第16回	『源氏物語』概説	
	第17回	『源氏物語』の研究手法	
	第18回	『源氏物語』『若紫』巻の輪読－北山探訪－	
	第19回	「若紫」巻の輪読－小柴垣のすき見－	
	第20回	「若紫」巻の輪読－僧都の房に宿る－	
	第21回	「若紫」巻の輪読－御所と大臣邸に行く－	
	第22回	「若紫」巻の輪読－若草への文通－	
	第23回	「若紫」巻の輪読－藤壺の宮との密事－	
	第24回	「若紫」巻の輪読－北山の人々帰京－	

	<p>第25回 「若紫」巻の輪読―北山の尼君の死―</p> <p>第26回 「若紫」巻の輪読―光源氏と若紫―</p> <p>第27回 「若紫」巻の輪読―若紫を引き取る―</p> <p>第28回 「若紫」巻の輪読―二条院の若紫―</p> <p>第29回 「若紫」巻の輪読―若紫のその後―</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業概要	<p>前期は『更級日記』を通読し、物語に耽溺した少女時代から、宮仕え、結婚の経験を経て仏教の信仰を深めていく作者の心情を理解します。また、他の日記文学や随筆などとも比較して、平安時代の女性の生き方を学びます。</p> <p>後期は『源氏物語』『若紫』巻を、担当者を決めて輪読、研究発表し、プレゼンテーションの方法を学びながら読解を深めます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>前期は事前に担当場面の読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。</p> <p>後期は個人発表が中心です。2・3週間かけて担当場面を読み込み、調査・研究を深めて下さい。</p>
テキスト	<p>原岡文子訳注『更級日記』（角川ソフィア文庫）、743円（本体価格）</p> <p>玉上琢彌訳注『源氏物語 第1巻』（角川ソフィア文庫）、781円（本体価格）</p> <p>その他、授業時に指示します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>平安文学の読解は古典研究の基盤です。代表的な古典の輪読を通して文学に親しみ、正確な鑑賞・研究方法を身につけます。質疑応答を含め、積極的な授業への参加を望みます。</p>
評価方法	<p>研究発表（30%）、レポート（60%）、授業への参加の度合い（10%）等で評価する。</p>
参考文献	<p>『新編日本古典文学全集 和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』小学館</p> <p>『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館</p> <p>玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店</p> <p>『源氏物語事典』大和書房</p>
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 古典文学読解のための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書、索引、関連図書などを使って調査する方法を身につける。 3. 調べたことをもとに、自らの意見を組み立て、発表する方法を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス(辞書・文献などの使い方、発表資料の作成方法について)	
	第2回	『伊勢物語』概説①「『伊勢物語』の時代と在原業平」「書名と成立」	
	第3回	『伊勢物語』概説②『伊勢物語』と『古今和歌集』」「成立論について」	
	第4回	『伊勢物語』講読「初冠」(初段) (「講読」は教員による講義形式で行う。以下同じ。)	
	第5回	『伊勢物語』講読「二条后章段」①(第三段・第四段)	
	第6回	『伊勢物語』演習「筒井筒」①(第二十三段) (受講生全員で分担して語句・和歌を解釈する)	
	第7回	『伊勢物語』演習「筒井筒」②(第二十三段) (受講生全員で「筒井筒」の内容について議論する)	
	第8回	『伊勢物語』講読「二条后章段」②(第五段・第六段)	
	第9回	『伊勢物語』講読「二条后章段」③(第六十五段)	
	第10回	『伊勢物語』演習「東下り章段」①(第七段) (「演習」は担当者による発表と出席者による質疑応答で行う。以下同じ。)	
	第11回	『伊勢物語』演習「東下り章段」②(第八段～第九段)	
	第12回	『伊勢物語』演習「東国章段」①(第十段～第十一段)	
	第13回	『伊勢物語』演習「東国章段」②(第十二段～第十三段)	
	第14回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」①(第十四段)	
	第15回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」②(第十五段)	
	第16回	『伊勢物語』講読「狩使章段」(第六十九段)	
	第17回	『伊勢物語』演習「実名章段」(第十六段・第三十九段・第百一段など)	
	第18回	『伊勢物語』演習「梓弓」(第二十四段)	
	第19回	『伊勢物語』演習「行く蛸」(第四十五段)	
	第20回	『伊勢物語』演習「花橘」(第六十段)	
	第21回	『伊勢物語』演習「つくも髪」(第六十三段)	
	第22回	『伊勢物語』演習「斎宮章段」①(第七十段～第七十五段)	
	第23回	『伊勢物語』演習「二条后章段」(第七十六段・第九十五段)	
	第24回	『伊勢物語』演習「惟喬親王章段」①(第八十二段)	

	第25回	『伊勢物語』演習「惟喬親王章段」②(第八十三段・第八十五段)
	第26回	『伊勢物語』演習「さらぬ別れ」(第八十四段)
	第27回	『伊勢物語』演習「斎宮章段」②(第百二段・第百四段)
	第28回	『伊勢物語』演習「翁章段」(第七十六段～第七十九段・第百十四段など)
	第29回	『伊勢物語』演習「陸奥国章段」③(第百十五段・第百十六段)
	第30回	『伊勢物語』演習「つひにゆく道」(第百二十四段・第百二十五段)
授業概要	『伊勢物語』を読みます。発表担当者が調べ考察したことを報告した後、他の人から質問・意見を受け、討論する演習形式で進めます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	演習の発表担当者は、担当する段の語句、和歌などについて調べ、レジュメを作成すること。担当者以外の者はその段をあらかじめ読み、内容を理解しておくこと。	
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』(角川ソフィア文庫)税込価格778円	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	『伊勢物語』は和歌とその和歌をめぐる物語からなる短い章段、百二十五段で構成されています。和歌の解釈、章段ごとの解釈、『伊勢物語』の中での解釈と、さまざまに読むことができるおもしろさを感じ取ってもらえればと思います。毎時全員に発言を求めますので、予習して授業に臨んで下さい。	
評価方法	発表・討論における発言・出席(70%)、年度末レポート(30%)	
参考文献	授業時に指示します。	
備考		

講義科目名称：国文学基礎演習三（10130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古典文法の復習もかね、古典学習の方法を学び、和歌を中心に古典の読解を発展させます。		
授業計画	第1回	導入 藤原公重と『風情集』述懐百種について	
	第2回	古典文法概観・古典読解の諸道具（辞書・辞典・図書館・検索法）について	
	第3回	古典和歌の世界、修辞について	
	第4回	受講生の発表1（風情集535～537番、以下同） 以下、一人一首計三名の発表	
	第5回	受講生の発表2（風情集538～540）	
	第6回	受講生の発表3（風情集541～543）	
	第7回	受講生の発表4（風情集544～546）	
	第8回	受講生の発表5（風情集547～549）	
	第9回	受講生の発表6（風情集548～550）	
	第10回	受講生の発表7（風情集551～554） 以下、一人二首二名の発表	
	第11回	受講生の発表8（風情集555～558）	
	第12回	受講生の発表9（風情集559～562）	
	第13回	受講生の発表10（風情集563～566）	
	第14回	受講生の発表11（風情集567～570）	
	第15回	受講生の発表12（風情集571～574）	
	第16回	受講生の発表13（風情集575～578）	
	第17回	受講生の発表14（風情集579～582）	
	第18回	受講生の発表15（風情集583～586）	
	第19回	受講生の発表16（風情集587～590）	
	第20回	受講生の発表17（風情集591～594）	
	第21回	受講生の発表18（風情集595～598）	
	第22回	受講生の発表19（風情集599～602）	
	第23回	受講生の発表20（風情集603～606）	
	第24回	受講生の発表21（風情集607～610）	
	第25回	受講生の発表22（風情集611～614）	

	<p>第26回 受講生の発表23 (風情集615～618)</p> <p>第27回 受講生の発表24 (風情集619～622)</p> <p>第28回 受講生の発表25 (風情集623～626)</p> <p>第29回 受講生の発表26 (風情集627～630)</p> <p>第30回 受講生の発表27 (風情集631～633) 未発表者調整の回</p>
授業概要	平安時代後期の歌人藤原公重の歌集『風情集』末尾の百首は、あたかも自虐・ウツの感情に満ち満ちた大変ユニークな和歌です。勿論、平安和歌ですから、平安時代を基とする「古典文法」と修辞に基づいてをります。授業では、この作品に限らず、古典作品を読む為の参考図書、辞書等の利用方を学び、各自、宛てられた和歌を読み解き、その意味、技法を発表します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	常に文法書、古語辞典を携帯し、古典を読む。対象が平安和歌なので、古今和歌集がおすすめ。
テキスト	コピーを配ります。高校で利用した古典文法、古語辞書必携(電子辞書はお勧めしません)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	吾と云へば人の言葉はあらし山かくては何と生まれこしちぞ 「私が…」といふと他人の言葉は荒いのです(荒らしと愛発山が懸詞)。この様な状況では、どうして私は生まれてきたのだらう(と歎かれます)(来しと越路が懸詞) なんて素敵な歌が続出です。 古典文法を復習しながら、貴女の感性にピッタリの和歌世界に浸れます。
評価方法	演習の発表(100%)
参考文献	片桐洋一『歌枕・歌ことば辞典』
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	大正期の短篇小説の読解を、演習形式で行う。作品内の語句や事象について細かい注釈をつけること、先行研究を調査・整理すること、それらを踏まえたうえで自分なりの読解や考察を提示し、議論することを通して、今後の学習・研究に必要な力を磨く。		
授業計画	第1回	ガイダンス テキスト、年間計画、授業形態について説明。報告者の選定。	
	第2回	調査・資料作成の方法について	
	第3回	報告・議論の方法について	
	第4回	文学作品の分析・読解の方法について	
	第5回	田村俊子「女作者」 報告・議論による読解	
	第6回	上司小剣「鱧の皮」 報告・議論による読解	
	第7回	岡本綺堂「子供役者の死」 報告・議論による読解	
	第8回	佐藤春夫「西班牙犬の家」 報告・議論による読解	
	第9回	里見淳「銀二郎の片腕」 報告・議論による読解	
	第10回	広津和郎「師崎行」 報告・議論による読解	
	第11回	有島武郎「小さき者へ」 報告・議論による読解	
	第12回	久米正雄「虎」 報告・議論による読解	
	第13回	前期の学習の反省・総括	
	第14回	レポート作成の方法について①	
	第15回	レポート作成の方法について②	
	第16回	中間レポートの提出、発表者の選定	
	第17回	中間レポートの講評	
	第18回	芥川龍之介「奉教人の死」 報告・議論による読解	
	第19回	宇野浩二「屋根裏の法学士」 報告・議論による読解	
	第20回	岩野泡鳴「猫八」 報告・議論による読解	
	第21回	内田百閒「花火」 報告・議論による読解	
	第22回	菊池寛「入れ札」 報告・議論による読解	
	第23回	川端康成「葬式の名人」 報告・議論による読解	
	第24回	葛西善蔵「椎の若葉」 報告・議論による読解	

	第25回	葉山嘉樹「淫売婦」 報告・議論による読解
	第26回	大正期文学について・総括
	第27回	先行研究の調べ方・論文の読み方①
	第28回	先行研究の調べ方・論文の読み方②
	第29回	先行研究の調べ方・論文の読み方③
	第30回	まとめ
授業概要	毎回、報告者とディスカッサント(質問者、議論のまとめ役)を設定し、それぞれの意見を交わし合うことで、各自の読解を深めていく。そのプロセスを繰り返すことで、既存の価値付けにとらわれずに、文学をおもしろく読む力を養っていく。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	発表担当者以外の人も、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理してくる。	
テキスト	紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 大正篇』(岩波文庫、800円+税)	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいと思います。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う(読み)になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。	
評価方法	授業中の報告内容(30%)、質疑などの発言(20%)、レポート課題(50%)によって評価する。	
参考文献	授業中に適宜提示する。	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>①国語国文学の基礎となる作品の「読み」について、演習形式で学習します。</p> <p>②各自が報告者となり、毎回、作品について討議を交わす形で授業が展開されます。自分が発言し、他の人の意見を聞くという機会を通して、「読み」の意味を確認していくことがねらいです。</p>
授業計画	<p>第1回 全体の進行や年間計画等の説明 演習形式や年間計画などについて概説。 報告者は1週間前にレジメを配布、受講者は作品とレジメとを必ず読んでから講義に参加することを確認。</p> <p>第2回 年間計画の策定・芥川龍之介解説① 発表担当作品等の年間計画を策定、芥川龍之介の生涯と文学について解説①。</p> <p>第3回 芥川龍之介解説② 芥川龍之介の生涯と文学について解説②。</p> <p>第4回 「羅生門」 「羅生門」を演習形式で読む。 レジメに従って問題点等を確認、それに対する各自の意見交換、質疑応答。以下、この内容を踏襲。</p> <p>第5回 「鼻」 「鼻」を演習形式で読む。</p> <p>第6回 「芋粥」 「芋粥」を演習形式で読む。</p> <p>第7回 「或日の大石内蔵助」 「或日の大石内蔵助」を演習形式で読む。</p> <p>第8回 「蜘蛛の糸」 「蜘蛛の糸」を演習形式で読む。</p> <p>第9回 「地獄変」 「地獄変」を演習形式で読む。</p> <p>第10回 「枯野抄」 「枯野抄」を演習形式で読む。</p> <p>第11回 「奉教人の死」 「奉教人の死」を演習形式で読む。</p> <p>第12回 「杜子春」 「杜子春」を演習形式で読む。</p> <p>第13回 「秋」 「秋」を演習形式で読む。</p> <p>第14回 「舞踏会」 「舞踏会」を演習形式で読む。</p> <p>第15回 「南京の基督」 「南京の基督」を演習形式で読む。</p> <p>第16回 「藪の中」① 「藪の中」を演習形式で読む①。</p> <p>第17回 「藪の中」② 「藪の中」を演習形式で読む②。</p> <p>第18回 「トロッコ」 「トロッコ」を演習形式で読む。</p> <p>第19回 「雛」 「雛」を演習形式で読む。</p> <p>第20回 「六の宮の姫君」 「六の宮の姫君」を演習形式で読む。</p> <p>第21回 「一塊の土」 「一塊の土」を演習形式で読む。</p> <p>第22回 「玄鶴山房」① 「玄鶴山房」を演習形式で読む①。</p> <p>第23回 「玄鶴山房」② 「玄鶴山房」を演習形式で読む②。</p>

	第24回	「点鬼簿」 「点鬼簿」を演習形式で読む。
	第25回	「河童」① 「河童」を演習形式で読む①。
	第26回	「河童」② 「河童」を演習形式で読む②。
	第27回	「歯車」① 「歯車」を演習形式で読む①。
	第28回	「歯車」② 「歯車」を演習形式で読む②。
	第29回	芥川龍之介の小説世界 演習を通して見えてきた芥川龍之介の小説世界について、演習形式で討議する。
	第30回	総括 芥川龍之介の文学世界についてを総括し、作品の「読み」の課題を確認する。
授業概要	国語国文学の基礎となる作品の「読み」について、演習形式で学習します。各自が報告者となり、毎回、作品について討議を交わす形で授業が展開されます。自分が発言し、他の人の意見を聞くという機会を通して、「読み」の意味を確認していくことがねらいです。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	芥川龍之介について、図書館などで調べるようにしてください。	
テキスト	芥川龍之介『羅生門・蜘蛛の糸・杜子春外十八篇』（文春文庫）	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回の発言を最も重視し、評価もそこを基点に行います。さらに、報告資料やレポート等を加味して総合評価を行います。必ず1回以上は発言を求めますので、積極的に参加して下さい。授業評価で指摘のあった、席替えや進行形式については、みんなで相談してより望ましい形にそのつど改めていく予定です。	
評価方法	授業への積極的参加度（50%）、期末レポート課題（50%）	
参考文献	演習の中で適宜紹介する予定。	
備考		



講義科目名称：国語学基礎演習一（10160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国文学・国語学の基礎的知見を身につけることを授業テーマの主軸に据えて、古典文学の文章に触れ、古典文法をしっかり復習して、古典を「読む」ことに習熟することを目標とする。		
授業計画	第1回	導入 古典の仮名遣いについて	
	第2回	日本文学史の時代区分	
	第3回	文学史の流れを大掴みに把握する（上代・中古文学）	
	第4回	文学史の流れを大掴みに把握する（中世・近世文学）	
	第5回	『日本古典文学大辞典』を使って実際の作品の概要について調べる	
	第6回	辞書の構成について	
	第7回	古語辞典を使って古語を調べる	
	第8回	清少納言の活躍した時代背景について	
	第9回	『枕草子』執筆の動機について	
	第10回	『枕草子』本文系統について	
	第11回	『枕草子』類聚章段を読む	
	第12回	『枕草子』随想的章段を読む	
	第13回	『枕草子』日記的章段を読む	
	第14回	『枕草子』が後代に与えた影響について	
	第15回	まとめと後期演習の計画	
	第16回	北村季吟『枕草春曙抄』について	
	第17回	『春曙抄』本文を読む	
	第18回	『春曙抄』頭注・傍注を読む	
	第19回	発表に備えて各自「読み」を練習する①（変体仮名の解説）	
	第20回	発表に備えて各自「読み」を練習する②（注釈部の理解）	
	第21回	発表①「清涼殿の丑寅の隅の」	
	第22回	発表②「頭中将のそぞろなるそら言にて」	
	第23回	発表③「里にまかでたるに」	
	第24回	発表④「淑景舎東宮にまゐりたまふほどのことなど」	
	第25回	発表⑤「円融院の御はての年」	

	<p>第26回 発表⑥「故院などおはしまさで」</p> <p>第27回 発表⑦「宮に初めてまゐりたるころ」</p> <p>第28回 発表⑧「御前に人々あまたもの仰せらるるついでに」</p> <p>第29回 発表⑨「大納言殿まゐりて」</p> <p>第30回 発表⑩「僧都の君の御乳母」</p>
授業概要	日本の古典文学におけるおおよその歴史的展開を理解するため、代表的な古典作品を抜粋して、文体的な特徴をつかむ。後に、日本古典文学の代表的作品『枕草子』を取り上げ、日記的章段を中心に、受講生自ら、難解な表現について注釈書を紐解きながら解説し、「読み」の発表を行いつつ、受講生全体で理解を深めていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の学習内容範囲を指定するので、その部分を事前に読み、要点を掴んでおくこと。授業後は問題点を整理し、理解の跡を残しておくこと。
テキスト	テキストは指定せず、資料をプリントで配布します。高校時代に国語科の授業で用いた『古語辞典』（相応の電子辞書も可）もしくは文法のサブテキスト(何でも良い)を用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	高校時代、古典にあまり触れて来なかった方を対象として行いたいと思います。作業中心に進めることが理解度に結びついたとの意見が寄せられたので、できるかぎりそのように計らいたく思います。
評価方法	授業への参加度(70%)+発表の成果(30%)
参考文献	小田勝『事例詳解古典文法総覧』（和泉書院） 田中重太郎『枕冊子全注釈』（角川書店） 萩谷朴『枕草子解環』（同朋舎出版）
備考	

講義科目名称：国語学基礎演習二（10170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	現代日本語表現に関する実践力、思考力の養成を目指します。国語教育の分野を含みます。		
授業計画	第1回	導入 書き言葉 前期 基本資料の配付とグループ分け	
	第2回	話し合いの仕方	
	第3回	発表資料の作成の仕方と印刷室の使い方	
	第4回	情報発信力を高める 導入	
	第5回	表現の基礎 表記とことばづかい	
	第6回	情報を整理して示す メニューを作る	
	第7回	情報を確実に伝える 注意書き	
	第8回	情報を正確に伝える 連絡メール	
	第9回	コミュニケーション力をつける 導入	
	第10回	表現の基礎 読みやすい文	
	第11回	相手に合わせて表現する 敬語	
	第12回	配慮して伝える お願いする	
	第13回	丁寧に伝える 手紙の書き方	
	第14回	前期のまとめ	
	第15回	後期の担当確認	
	第16回	導入 話し言葉	
	第17回	アピール力をつける	
	第18回	表現の基礎 わかりやすい表現	
	第19回	企画のアピール	
	第20回	話すトレーニングの進め方	
	第21回	問い合わせをする	
	第22回	お店で接客する	
	第23回	お願いをする	
	第24回	お店やサークルの宣伝をする	
	第25回	誘う、断る、謝る	

	<p>第26回 道や交通の案内をする</p> <p>第27回 スピーチをする</p> <p>第28回 グループ報告書作成の仕方</p> <p>第29回 報告書の作成</p> <p>第30回 成果の発表</p>
授業概要	<p>言語理解と言語表現をアクティブラーニングの視点からグループワークという作業を通して実践的にまた主体的に学ぶための演習をします。仮想世界の会話や文書による表現にふれながら、ことばの働きに関して重要と考えられる言語学的トピックスを取り上げ、エクササイズを行います。具体的には、「ちょっとおかしいんじゃない」と感じとれる文例を参照し、どこがおかしいのか、どう直せばよいかをみんなで検討してみましょう。演習形態はグループ編成学習です。3～4グループに分けます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回の演習で取り上げられるテーマについて、自分の見方や他の人の考え方を整理するように努めてください。</p>
テキスト	<p>『グループワークで日本語表現力アップ』 ひつじ書房 1, 400円+税 演習開始時に指示します。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>演習は、学生による学生のための時間です。教師役と学生役を受講生が交替しながら自分たちで運営しているかなければなりません。出席し、参加することが一番大切なことです。</p>
評価方法	<p>演習への参加度・質疑応答の参加度（100%） 筆記試験・個別レポートはありません。</p>
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	日本語音声学の入門講座です。音声表現に関して基礎知識の定着と実践力を養成します。		
授業計画	第1回	導入 音声学とは	
	第2回	日本語のリズム	
	第3回	聞くとは	
	第4回	方言の音声	
	第5回	外国語の音声	
	第6回	調音	
	第7回	身体器官の仕組み	
	第8回	母音 日本人の口の開き方と英語の基本母音	
	第9回	口の観察	
	第10回	子音 口音と鼻音	
	第11回	閉鎖音・摩擦音 子音2	
	第12回	破擦音・接近音・弾き音 子音3	
	第13回	母音の無声化 聞き取りとルール	
	第14回	鼻濁音 聞き取りと発音練習	
	第15回	振り返り学習 前期の復習	
	第16回	導入 五〇音の並び 前期の復習2	
	第17回	音声連続の特色（プロソディ）	
	第18回	リズムとスタッカート	
	第19回	音の感覚 アクセント	
	第20回	アクセントの識別	
	第21回	イントネーション 韻律特徴	
	第22回	フォーカス プロミネンスとポーズ	
	第23回	ナレーションの工夫	
	第24回	声あての工夫	
	第25回	朗読	

	<p>古典</p> <p>第26回 表現読み 太宰治作品</p> <p>第27回 フレージング</p> <p>第28回 プロソディの復習と確認</p> <p>第29回 群読</p> <p>第30回 まとめと試験</p>
授業概要	L L教室で講義と実習、グループ学習を中心に行い、話す音と聞く音はどう違うのかを体験します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	音声学に関連する専門用語について、毎回知識の定着をはかるように努めてください。
テキスト	本年度の国語学概論のテキスト『新 ここからはじまる日本語学』を利用します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教職（国語）必修科目として履修する場合は1年生で受講しましょう。また近い将来音声学の素養が必要になる人は受講が望ましいと思われます。音声に関する身近な例（CD, DVD, BD）を多く挙げます。歌手などの口の開き方を観察します。プリントを多数併用します。綴じるファイルを用意してください。
評価方法	1年間座席指定。授業への参加度を重視80%（グループ課題達成度20%を含む）試験20%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	I 日本語の音声についての理解を深める。 II 自分の話し言葉をふり返りつつどのような音声的な特徴をもって話しているかを知る。		
授業計画	第1回	導入一年間計画・受講者の言語歴一	
	第2回	話し言葉と音声	
	第3回	音・音声について	
	第4回	音声器官と各部位の特徴	
	第5回	発声と発音あるいは調音	
	第6回	日本語の標準母音	
	第7回	世界言語中の日本語母音	
	第8回	子音の特徴	
	第9回	子音の分類とくに調音の位置と方法とについて	
	第10回	子音の分類とくに音声素性について	
	第11回	母音と子音(まとめ)	
	第12回	五十音図の音声学	
	第13回	有声と無声	
	第14回	有気と無気	
	第15回	母音の無声化	
	第16回	子音の口蓋化	
	第17回	音の清・濁ならびに連濁の諸相	
	第18回	ガ行濁子音のこと	
	第19回	撥音・促音・長音の話	
	第20回	四つがなのこと	
	第21回	音声学と音韻論	
	第22回	音素と異音	
	第23回	標準日本語の音節	
	第24回	日本語音韻史 上代・中古編	
	第25回	日本語音韻史 中世・近世編	

	<p>第26回 標準日本語のアクセント</p> <p>第27回 プロミネンスとインテンシティ</p> <p>第28回 東部方言の音声・音韻・アクセント</p> <p>第29回 西部・九州方言の音声・音韻・アクセント</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業概要	標準日本語の音声・音韻・アクセント全般について、受講者による言語の内省を促しつつ講述する。また自分の音声にはどのような特徴があるのか、自分の話し言葉を入念に観察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の学習内容に該当するテキスト頁ならびに配布物の箇所を指定しながら進める予定でいるので、その部分に関して予めよく目を通し、理解して臨みたい。
テキスト	川上蔡『日本語音声概説』（おうふう・1300円＋税） 併せて授業時プリントを配布する。当該時間の欠席者にはレターケースに投函する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業評価において、理解するのが難しい旨何件か寄せられております。それに対しては、自分自身の発音をじっくり観察しながら体験的に学修できるように、なるべくその時間を確保して進めたいと思います。またこの授業は、授業コード10191との重複履修ができませんので、ご注意ください。
評価方法	授業への参加度(50%)および確認試験(50%)
参考文献	城生佰太郎・福盛貴弘・齋藤純男『音声学基本事典』（勉誠出版） 『音声学大辞典』（三修社） 服部四郎『音声学』（岩波書店）
備考	



講義科目名称：国文学講読一（10210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『古今和歌集』四季の歌の読解、歌ことばの表現を通して、韻文世界に親しむ。 『古今和歌集』の影響と受容の諸相を理解する。
授業計画	<p>第1回 『古今和歌集』概説</p> <p>第2回 古代の和歌文学史</p> <p>第3回 『万葉集』秀歌（第一期、第二期）の読解</p> <p>第4回 『万葉集』秀歌（第三期、第四期）の読解</p> <p>第5回 『古今和歌集』「仮名序」の読解①</p> <p>第6回 『古今和歌集』「仮名序」の読解②</p> <p>第7回 『古今和歌集』「春歌上」の読解</p> <p>第8回 『古今和歌集』「春歌下」の読解</p> <p>第9回 『古今和歌集』「夏歌」の読解</p> <p>第10回 『古今和歌集』「秋歌上」の読解</p> <p>第11回 『古今和歌集』「秋歌下」の読解</p> <p>第12回 『古今和歌集』「冬歌」の読解</p> <p>第13回 『古今和歌集』「離別歌」の読解</p> <p>第14回 『古今和歌集』の歌ことば、歌人について</p> <p>第15回 『古今和歌集』の原文読解（変体仮名を読む）</p>
授業概要	講義の形をとります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	『古今和歌集』を日常的に読みこんで授業や他作品の読みに活かして下さい。
テキスト	小町谷照彦訳注『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）、定価1500円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の最初の勅撰和歌集『古今和歌集』は、日本人の季節感を形作り、また『枕草子』にも出てくるように、愛唱されて新しい和歌を産む素養となりました。『源氏物語』の引歌で最も多いのもこの作品です。和歌の読解と鑑賞を通して古典文学に親しみ、平安時代の感性を身につけることで、他の作品をも理解することができるようになります。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 古今和歌集』小学館 『新日本古典文学大系 古今和歌集』岩波書店
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」－『紫式部日記』と『源氏物語』）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」、「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 『源氏物語』における「帚木」の位置 （冒頭の表現－「桐壺」と「帚木」のつながり、「帚木三帖」）</p> <p>第4回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」① （発端 光源氏と頭中将 頭中将の女性観）</p> <p>第5回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」② （左馬頭の論① 中の品の女）</p> <p>第6回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」③ （左馬頭の論② 理想の妻）</p> <p>第7回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」④ （左馬頭の体験談① 指喰いの女）</p> <p>第8回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑤ （左馬頭の体験談② 木枯の女）</p> <p>第9回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑥ （頭中将の体験談 常夏の女）</p> <p>第10回 「帚木」巻講読 「雨夜の品定め」⑦ （藤式部丞の体験談 博士の女/女性論のまとめ）</p> <p>第11回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」① （発端－方違えのため紀伊守邸へ）</p> <p>第12回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」② （女近き旅寝 空蟬の境遇）</p> <p>第13回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」③ （空蟬との契り）</p> <p>第14回 「帚木」巻講読 「光源氏と空蟬」④ （空蟬という女性）</p> <p>第15回 「帚木」巻講読 「まとめ」 （空蟬のその後 「恋愛譚の序」としての「帚木」巻）</p>
授業概要	『源氏物語』の「帚木」巻を講読します。登場人物の心情表現や語句に即して読み、「雨夜の品定め」に論じられる理想の女性像や女性の生き方についても考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）税込価格864円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「帚木」巻の「雨夜の品定め」は、後に展開される光源氏の恋愛譚の序と見ることができます。男性貴族たちの失敗談を交えた女性論は、現代にも通じる場所があり、楽しく読めることと思います。登場人物の心理描写、和歌など、『源氏物語』の豊かな表現世界に触れてみてください。随時、各自の解釈や感想などを書いてもらう予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：国文学講読三（10230）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『保元物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。		
授業計画	第1回	導入	保元物語の歴史的背景
	第2回		保元の乱の成立、諸本、作者像
	第3回		『保元物語』と対象歴史史料
	第4回		卷上講読一（乱の発端、崇徳院・藤原頼長）
	第5回		卷上講読二（策士信西の登場、陰謀の深化）
	第6回		卷上講読三（為義、その子英雄為朝の形象）
	第7回		卷上講読四（英雄為朝一党の成立）
	第8回		卷中講読一（合戦、清盛の懦弱、山田伊行の暴死）
	第9回		卷中講読二（合戦、義朝・為朝兄弟対決）
	第10回		卷中講読三（乱戦、関東武士の群像）
	第11回		卷下講読一（敗走・頼長最期）
	第12回		卷下講読二（父為義の処刑）
	第13回		卷下講読三（幼児とその母の死）
	第14回		卷下講読四（為朝捕縛流罪）
	第15回		卷下（番外）為朝の冒険と最期
授業概要	保元の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、英雄為朝の活躍や源氏の遺児達の処刑場面に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、歴史資料（『愚管抄』・『兵範記』等）との比較、保元物語の諸本（内容が異なる本、半井本・鎌倉本・京図本・竜門本・金刀比羅本、古活字本等）間の比較を通じて、立体的に物語を精読します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	愚管抄、兵範記の関係箇所を読解、保元物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解		
テキスト	コピーを配ります。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	さまざまな媒体で、源平合戦、あるいは保元の乱についてどこかで知ってゐる、キャラ萌えしてゐる貴女！『保元物語』がその根源ですよ！ しかし歴史資料からする保元の乱の真相、『保元物語』諸本による事件展開、人物造型の相違等、今までとは異なる保元物語が起ち上がって来ると思ひます。 読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷´；）		
評価方法	レポート（100%）		
参考文献	授業で適宜指示		
備考			

講義科目名称：国文学講読四（10240）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	島崎藤村の小説『破戒』を、日本近代文学における諸問題と関連付けながら読解します。特に差別の問題を中心としますが、近代化による文学観の変遷や、文体、メディアの問題から、人種や階級、ジェンダーの問題、移民の問題にも言及する予定です。授業を通して、単に物語の筋を追うだけではない、文学テキストの精緻な読解、批評的な読解の方法を学びます。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	1900年前後における日本近代文学の諸問題・概観	
	第3回	日本近代文学と〈差別〉①幕末期大衆文芸作品から	
	第4回	日本近代文学と〈差別〉②深刻小説・幻想小説と差別	
	第5回	〈紀行文〉の時代と『千曲川のスケッチ』	
	第6回	『破戒』講読①〈飯山〉という空間	
	第7回	『破戒』講読②近代日本における〈学校〉	
	第8回	『破戒』講読③地図の思想と旅する主体	
	第9回	『破戒』講読④テキストに描かれた〈科学〉	
	第10回	『破戒』講読⑤丑松の「恋」とジェンダー	
	第11回	『破戒』講読⑥テキサス行きをめぐって	
	第12回	日本近代文学と〈差別〉③改訂版『破戒』について	
	第13回	日本近代文学と〈差別〉④水平社運動前後	
	第14回	日本近代文学と〈差別〉⑤戦後文学	
	第15回	まとめ	
授業概要	教員による講義・解説が6割、履修者による個人作業やディスカッションを4割で進めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容によっては、あらかじめ対象範囲を読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課します。		
テキスト	島崎藤村『破戒』（新潮文庫）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「予習ノート」の取り組みに力を入れて欲しいと思います（詳しい内容については初回時に説明します）。はじめに読んで面白く、あるいはつまらなく思ったところ、わからなかったところ、大事だと思ったところが、講義や他の人とのディスカッションによって、どのように掘り下げられていくのか。皆さん自身の読みの深化・発展を実感してください。		
評価方法	予習ノートの提出（25%）、ディスカッションでの発言（25%）、期末レポート（50%）によって評価します。		
参考文献	授業中に適宜提示します。		
備考			

講義科目名称：国文学講読五（10250）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	「語り」の問題を中心に、小説を読むとは如何なることかについて、学ぶことをテーマとする。各自が自らの「読み」を構築し、読むことを通じて「自己変容」をどれだけ達成できるかを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 川端文学概説</p> <p>第2回 「掌の小説」について概説</p> <p>第3回 「掌の小説」の「読み」①</p> <p>第4回 「掌の小説」の「読み」②</p> <p>第5回 「掌の小説」の「読み」③</p> <p>第6回 「掌の小説」の「読み」④</p> <p>第7回 「掌の小説」の「読み」⑤</p> <p>第8回 「掌の小説」の「読み」⑥</p> <p>第9回 「掌の小説」の「読み」⑦</p> <p>第10回 「掌の小説」の「読み」⑧</p> <p>第11回 「掌の小説」の「読み」⑨</p> <p>第12回 「掌の小説」の「読み」⑩</p> <p>第13回 「掌の小説」の「読み」⑪</p> <p>第14回 「掌の小説」の「読み」⑫</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	予め受講生が選択した作品について、「学生報告」－「全体討議」－「教員報告」－「総括」という形で「読み」を深めていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	川端康成について、図書館などで調べるようにしてください。
テキスト	川端康成「掌の小説」（新潮文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ディスカッションを大事にしますので、受け身にならず、積極的に発言して下さい。小説の「読み」に「正解」はありません。各自がどこまで自らの「読み」を深めることができるのか、ここが問われます。
評価方法	ディスカッションでの発言（25%）、小レポート（25%）、期末レポート（50%）によって評価。
参考文献	授業中に適宜提示する。
備考	

講義科目名称：国文学講読六（10260）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代前期の作り物語である『竹取物語』と『うつほ物語』の読解を通して、物語の発生と後世の作品への影響関係を学び、古典文学の鑑賞と基礎的な研究方法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 古典文学読解のための基礎知識</p> <p>第2回 古代文学史・概説</p> <p>第3回 『竹取物語』の出典考証</p> <p>第4回 『竹取物語』の読解―かぐや姫の生い立ち―</p> <p>第5回 『竹取物語』求婚譚と五つの難題</p> <p>第6回 『竹取物語』仏の御石の鉢、蓬萊の珠の枝</p> <p>第7回 『竹取物語』火鼠の皮衣、竜の頸の珠</p> <p>第8回 『竹取物語』燕の子安貝、御狩のみゆき</p> <p>第9回 『竹取物語』天の羽衣</p> <p>第10回 『竹取物語』富士の煙</p> <p>第11回 『竹取物語』の享受（『源氏物語』における『竹取物語』引用）</p> <p>第12回 『うつほ物語』概説―秘琴伝授と王権の物語―</p> <p>第13回 『うつほ物語』「俊蔭」巻の読解―俊蔭の生い立ち―</p> <p>第14回 『うつほ物語』「俊蔭」巻―俊蔭の流離譚―</p> <p>第15回 『うつほ物語』「俊蔭」巻―俊蔭と秘琴伝授―</p>
授業概要	作品を輪読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面の読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。
テキスト	室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）、629円（本体価格） 室城秀之編『うつほ物語』（角川ソフィア文庫）、819円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『竹取物語』は『源氏物語』に「物語の出できはじめの親」と紹介されます。また『うつほ物語』は秘琴伝授と王権の物語で、後世の作品にも多く引用されます。平安文学の読解は古典研究の基盤です。代表的な作品の読解を通して古典文学に親しみ、基本的な研究・鑑賞の方法を身につけます。積極的な授業への参加を望みます。
評価方法	レポート（80%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する。
参考文献	上坂信男『竹取物語全評釈』右文書院 『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 『新編日本古典文学全集 うつほ物語①～③』小学館 室城秀之『うつほ物語 全』おうふう
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 奈美			

授業のテーマ及び到達目標	1. 平安時代の物語文学を理解するための基礎的な知識を身につける。 2. 辞書などを使って調べ、読解する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 『源氏物語』概説①（「成立と作者」）</p> <p>第2回 『源氏物語』概説②（「諸本」「『源氏物語』の構造」）</p> <p>第3回 「若紫」巻までの物語・登場人物についての解説</p> <p>第4回 「若紫」巻講読 「北山の垣間見」①—物語の発端（瘧病・加持、北山、垣間見について）</p> <p>第5回 「若紫」巻講読 「北山の垣間見」②—若紫との出会い（絵画とともに物語を鑑賞する）</p> <p>第6回 「若紫」巻講読 『伊勢物語』と「若紫」巻（『伊勢物語』「初段」「二条后章段」との比較）</p> <p>第7回 「若紫」巻講読 「僧都との対面」—若紫の素性を聞き出す（人物の移動の表現、対話表現を読み解く）</p> <p>第8回 「若紫」巻講読 「尼君との文通」①（和歌に託された光源氏の思いを読む）</p> <p>第9回 「若紫」巻講読 「尼君との文通」②—葵の上との不和と若紫への執着（和歌の贈答から、それぞれの思いを読み解く）</p> <p>第10回 「若紫」巻講読 「藤壺との密事」①（藤壺と光源氏、それぞれの心理描写を読む）</p> <p>第11回 「若紫」巻講読 「藤壺との密事」②—藤壺の懐妊と夢解き（『源氏物語』における観相・占いのかかわり）</p> <p>第12回 「若紫」巻講読 「尼君の死」—病床の尼を見舞い、若紫の声を聞く（尼君の遺言と光源氏の思い）</p> <p>第13回 「若紫」巻講読 「若紫を迎え取る」①—乳母との対面、若紫に添い寝する（光源氏の思惑と周囲の目）</p> <p>第14回 「若紫」巻講読 「若紫を迎えとる」②—若紫の新生活（若紫の位置 親子か夫婦か）</p> <p>第15回 まとめ—長編的構想から見た「若紫」巻</p>
授業概要	『源氏物語』の「若紫」巻を講読します。和歌、表現、語句などを読み解き、物語を逐語的に解釈した上で、解釈上の問題点や、『伊勢物語』との関わり、長編的構想との関わりなどを考察します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回学習するテキストの範囲を指定するので、予め読んで、理解しておくこと。
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語』第1巻（角川ソフィア文庫）税込価格864円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「若紫」巻には、光源氏が生涯最愛の女性となる紫の上と出会い自邸に迎え取るまでの物語が描かれています。また、他にも、葵の上との不和、藤壺との密事と懐妊など、『源氏物語』の長編的な内容に関わる重大な出来事も多く語られます。巧みな物語展開、登場人物それぞれの心情描写など、豊かな表現世界に触れてみてください。毎回、各自の解釈や感想、疑問を書いてもらい授業に反映させる予定です。予習の上、出席して下さい。
評価方法	授業への参加度と提出物（30%）、学期末の筆記試験（70%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：国文学講読八（10280）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『平治物語』を読み解き、その魅力を知ると共に、その成立について学びます。
授業計画	<p>第1回 導入 平治の乱の歴史的背景</p> <p>第2回 平治物語の成立・諸本・作者像、対象史料について</p> <p>第3回 卷上講読一 不用者信頼と大学者信西</p> <p>第4回 卷上講読二（焼討と信西最後の謎、その解明）</p> <p>第5回 卷上講読三 清盛・重盛の造形</p> <p>第6回 卷上講読四 物語の転機（光頼諫言・天皇脱出の虚実）</p> <p>第7回 卷上講読五（信頼像の瓦解と悪源太の登場）</p> <p>第8回 卷中講読一（重盛と義平の激突）</p> <p>第9回 卷中講読二（六波羅の決選と源氏の敗北）</p> <p>第10回 卷中講読三（源氏壊走）</p> <p>第11回 卷中講読四（義朝の最期、頼朝の捕縛）</p> <p>第12回 卷下講読一（義平の潜伏と刑死、怨霊化）</p> <p>第13回 卷下講読二（頼朝助命、配流）</p> <p>第14回 卷下講読三（常盤の苦衷）</p> <p>第15回 卷下講読四（源氏開運）</p>
授業概要	平治の乱にもとづいた本作品三巻は、歴史的事件に基づきながら、藤原信頼、信西等の造型に見られる様に、物語としての飛躍があります。授業では単に意味を取るのではなく、平治物語の諸本（内容が異なる本、陽明本・九条本、『平治物語絵詞』、金刀比等本）間の比較、他物語（『平家物語』・舞の本）との比較を通じて、立体的に物語を精読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	愚管抄の関係個所の読解、平治物語各本の対照、関連作品（保元物語・平家物語）の読解
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史資料が不足してゐる為、平治の乱の真相は不明な所が多いのです。また源氏の敗北と悲話の部分には、民間伝承の反映が予想され、『保元物語』とも異なります。それでも謎の多い魔術師信西の自害、後白河院の脱出、源氏名刀伝説等、物語として興味深いです。読まうと思へば三日で読める分量ぢやが、ねっつく読むぞ（`谷`；）
評価方法	レポート（100%）
参考文献	授業中、適宜指示
備考	



講義科目名称：国文学講読九（10290）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本近代文学と〈女性〉をテーマに、大正期の文学作品を読み解きます。特に田村俊子の短篇小説と、有島武郎の『或る女』を扱います。授業を通して、単に物語の筋を追うだけではない、文学テキストの精緻な読解、批評的な読解の方法を学びます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 日本近代文学と〈女性〉概説①〈文学〉のホモソーシャル化</p> <p>第3回 日本近代文学と〈女性〉概説②明治期女性作家の試み</p> <p>第4回 雑誌『青鞥』と〈新しい女〉</p> <p>第5回 田村俊子「生血」講読</p> <p>第6回 田村俊子「女作者」講読</p> <p>第7回 田村俊子「木乃伊の口紅」講読</p> <p>第8回 有島武郎『或る女』講読①</p> <p>第9回 有島武郎『或る女』講読②</p> <p>第10回 有島武郎『或る女』講読③</p> <p>第11回 有島武郎『或る女』講読④</p> <p>第12回 有島武郎『或る女』講読⑤</p> <p>第13回 有島武郎『或る女』講読⑥</p> <p>第14回 有島武郎『或る女』全体のまとめ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	教員による講義・解説が6割、履修者による個人作業やディスカッションを4割で進めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容によっては、あらかじめ対象範囲を読み、提示された課題について自分の意見をまとめる「予習ノート」の提出を課します。それ以外の場合でも、授業で扱う作品は事前に読んで来るようにお願いします。
テキスト	有島武郎『或る女』（新潮文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「予習ノート」の取り組みに力を入れて欲しいと思います（詳しい内容については初回時に説明します）。はじめに読んで面白く、あるいはつまらなく思ったところ、わからなかったところ、大事だと思ったところが、講義や他の人とのディスカッションによって、どのように掘り下げられていくのか。皆さん自身の読みの深化・発展を実感してください。
評価方法	授業内課題（30%）、ディスカッションでの発言（20%）、期末レポート（50%）によって評価します。
参考文献	授業中に適宜提示します。
備考	

講義科目名称：国文学講読十（10300）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	小説の「読み」について、「語り」を問題化することでその原理に遡り、作品に如何に撃たれるかをテーマとする。そうした過程の中で、読み手に「自己教育作用」を促すことを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 川端文学における「掌の小説」の全体像</p> <p>第2回 「掌の小説」を読むための基本</p> <p>第3回 「掌の小説」の「読み」①</p> <p>第4回 「掌の小説」の「読み」②</p> <p>第5回 「掌の小説」の「読み」③</p> <p>第6回 「掌の小説」の「読み」④</p> <p>第7回 「掌の小説」の「読み」⑤</p> <p>第8回 「掌の小説」の「読み」⑥</p> <p>第9回 「掌の小説」の「読み」⑦</p> <p>第10回 「掌の小説」の「読み」⑧</p> <p>第11回 「掌の小説」の「読み」⑨</p> <p>第12回 「掌の小説」の「読み」⑩</p> <p>第13回 「掌の小説」の「読み」⑪</p> <p>第14回 「掌の小説」の「読み」⑫</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	任意に受講生が選択した作品について、「学生報告」－「相互討論」－「教員報告」－「総括討議」という形で「読み」を深めていく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「掌の小説」を含め、できるだけ多くの川端康成の作品を読んでください。
テキスト	川端康成「掌の小説」（新潮文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受け身ではなく、自らの「読み」をお互いに交差しあうことが大切です。ぜひ積極的に発言して下さい。「読み」は「正解探し」をすることではなく、読んでいる自分を読む、「自己発見」が大切です。
評価方法	ディスカッションでの発言（25%）、小レポート（25%）、期末レポート（50%）によって評価する。
参考文献	授業中に適宜提示する。
備考	

講義科目名称：国文学特講一（10410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	上代の神話『古事記』の読解を通して、古代人の精神のルーツと物語の表現構造を理解する。
授業計画	<p>第1回 『古事記』概説</p> <p>第2回 上代文学史</p> <p>第3回 『古事記』序文の読解</p> <p>第4回 『古事記』上巻の読解―天地の創成、伊耶那岐神と伊耶那美神―</p> <p>第5回 天照大神と須佐之男命</p> <p>第6回 天の石屋神話（死と再生）</p> <p>第7回 大国主神</p> <p>第8回 天照大神と大国主神（国譲り）</p> <p>第9回 天忍穗耳命と迺々芸命（天孫降臨）</p> <p>第10回 日子穗々出見命</p> <p>第11回 鵜葺草葺不合命の系譜</p> <p>第12回 『古事記』中巻の読解―神武天皇の東征―</p> <p>第13回 神武天皇</p> <p>第14回 崇神天皇</p> <p>第15回 垂仁天皇、まとめ</p>
授業概要	『古事記』の輪読や『日本書紀』等との比較を通して、作品理解を深める。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面の読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。
テキスト	中村啓信訳注『新版 古事記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）定価1,160円（本体価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	上代文学作品は後の時代の作品にも大きな影響をもたらします。『古事記』や『日本書紀』を通して神話の世界や和歌の発生を理解し、文学の基盤を学びましょう。
評価方法	授業への参加の度合い（20%）とレポート（80%）で評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 古事記』小学館 西郷信綱『古事記注釈』全8巻、ちくま学芸文庫 大林太郎・吉田敦彦編『日本神話事典』大和書房
備考	

講義科目名称：国文学特講二（10420）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『伊勢物語』の調査・研究を通して、物語の表現構造と主題を探究する。 『伊勢物語』の享受状況から、文学史上の意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 前期物語概説</p> <p>第2回 『伊勢物語』の主人公とその時代</p> <p>第3回 『伊勢物語』の主人公とその時代</p> <p>第4回 初段と最終段、八十一段の読解（研究方法の説明）</p> <p>第5回 二条后章段</p> <p>第6回 女を盗む話</p> <p>第7回 東下り章段</p> <p>第8回 鄙に下る章段</p> <p>第9回 惟喬親王章段</p> <p>第10回 伊勢斎宮章段</p> <p>第11回 翁章段・媼の段</p> <p>第12回 運命を嘆く段</p> <p>第13回 肉親の情の段</p> <p>第14回 『伊勢物語』の文学史上の位置付け・享受史</p> <p>第15回 『伊勢物語』の原文読解（変体仮名の読み方）</p>
授業概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』を、担当者の研究発表を中心にして読解します。全125段の物語は、いくつかの章段で構成されており、各章段の特色と意義を調査検証し、質疑応答することで、作品の内容理解が深まります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	発表日の2・3週間前から、担当場面の調査・研究を深め、質疑応答に答えられるよう準備して臨んで下さい。
テキスト	石田穰二訳注『伊勢物語』（角川ソフィア文庫）定価778円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『伊勢物語』の昔男は、都で多くの人々と交流し、また、都を離れて旅をします。都と鄙、褻(ケ)（日常）と晴（非日常）の場で生み出される物語を、人物の関係性や和歌を通して味読し、作品理解を深めます。
評価方法	授業における積極的な参加度（30%）、レポートによる理解度（70%）で評価します。
参考文献	『新編日本古典文学全集 竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』小学館 竹岡正夫『伊勢物語全評釈 古注釈十一種集成』右文書院 鈴木日出男編『別冊国文学 竹取物語伊勢物語必携』學燈社、1988年
備考	

講義科目名称：国文学特講三（10430）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	将門記と将門伝承
授業計画	<p>第1回 導入 将門伝承の意義 怪物か英雄か</p> <p>第2回 史実としての将門の乱</p> <p>第3回 『将門記』の成立・諸本・表現・作者</p> <p>第4回 『将門記』講読一（冒頭～一族との私闘）</p> <p>第5回 『将門記』講読二（将門恩赦～再戦）</p> <p>第6回 『将門記』講読三（戦乱の拡大）</p> <p>第7回 『将門記』講読四（新皇即位～敗死）</p> <p>第8回 『将門記』近似文献（扶桑略記・閑寂物語集他）</p> <p>第9回 平家物語と将門の乱・『将門記』</p> <p>第10回 将門伝説一（神仏の調伏説話の成立と展開）</p> <p>第11回 関東武家の将門像（千葉氏・相馬氏の伝承を中心に）</p> <p>第12回 将門伝説の文学的展開（秀郷絵巻・草子）</p> <p>第13回 将門鉄身伝説―世界的な鉄人退治伝承の一として</p> <p>第14回 将門分身伝説の展開</p> <p>第15回 相論将門伝承とその成立</p>
授業概要	平安中期関東で挙兵、終に新皇に即位した平将門は、当然のことながら、日本史上、最悪の謀叛人となり、中世を通じて、怪物として変容を遂げます。一方で関東では英雄として崇拝される向きがあり、多様で豊かにその人物像が展開していきます。本授業では最初の戦争記録文学とも言へる『将門記』を中心に、説話・軍記・物語といった諸資料から、豊かな中世の想像力を探ります。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	将門記の精読、将門伝説文献、研究書の参照
テキスト	コピーを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	不死身の鉄身将門はどのように生まれたのか？虚実混在の中世歴史伝承は広く、深いです。
評価方法	レポート（100%）
参考文献	平凡社東洋文庫『将門記』、新撰日本古典文庫『将門記』、新編日本古典文学全集『将門記他』 村上春樹『平将門伝説』
備考	

講義科目名称：国文学特講四（10440）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
梅津 保一			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	松尾芭蕉紀行文の最高峰「おくのほそ道」について、資料と解説により、芭蕉が体験的事実からどのようにして詩的幻想の世界を描き出していたか、その創作の秘密を探る。
授業計画	<p>第1回 『おくのほそ道』への誘い</p> <p>第2回 松尾芭蕉の生涯</p> <p>第3回 『おくのほそ道』旅立ち～日光</p> <p>第4回 『おくのほそ道』那須野～遊行柳</p> <p>第5回 『おくのほそ道』白河の関～信夫の里</p> <p>第6回 『おくのほそ道』飯塚の里～宮城野</p> <p>第7回 『おくのほそ道』壺の碑～瑞巖寺</p> <p>第8回 『おくのほそ道』石の巻～尿前の関</p> <p>第9回 『おくのほそ道』尾花沢～最上川</p> <p>第10回 『おくのほそ道』出羽三山～酒田</p> <p>第11回 『おくのほそ道』象潟～越中路</p> <p>第12回 『おくのほそ道』金沢～山中温泉</p> <p>第13回 『おくのほそ道』全昌寺～永平寺</p> <p>第14回 『おくのほそ道』福井～大垣</p> <p>第15回 松尾芭蕉の終焉</p>
授業概要	『おくのほそ道』の原文を補助プリント（資料）を活用して読解します。
実務経験及び授業の内容	山形県地域史研究協議会会長、朝日アウトドア教養講座講師として、地域史や「おくのほそ道」に関する講座を行った経験を生かし、授業を行いたい。
時間外学習	現地に行き、「歩く見る聞く」体験をしてほしい。
テキスト	角川書店編『おくのほそ道（全）』（角川ソフィア文庫）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テキストを理解するための補助プリントを配布して、予習・復習に資したい。
評価方法	講義の感想（毎回）、レポート「歩く見る聞く おくのほそ道」、テストの成績を総合的に評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：国文学特講五（10450）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①自明のことと思われがちな文学の「読み」の問題を改めて問い直します。 ②「語り」の問題について、考察してみたいと思います。
授業計画	<p>第1回 文学という表現手段の現代的な意味についての概説 「語り」を中心に、現代日本の文学作品の意味について解説。 小説の読み方／読まれ方について概説。</p> <p>第2回 文学の〈読み方／読まれ方〉という課題についての概説 文学作品を読むための基本的な姿勢を解説。</p> <p>第3回 「公然の秘密」 「公然の秘密」（安部公房）の「語り」について解説。物語内容の理解に止まらず、語り手がどう語っているか、その意図はどこにあるのかといった「語り」の問題点を一緒に考える。以下、同様。</p> <p>第4回 「蠅」 「蠅」（吉行淳之介）の「語り」について解説。</p> <p>第5回 「おにたのぼうし」 「おにたのぼうし」（あまんきみこ）の「語り」について解説。</p> <p>第6回 「鏡」 「鏡」（村上春樹）の「語り」について解説。</p> <p>第7回 「セメント樽の中の手紙」 「セメント樽の中の手紙」（葉山嘉樹）の「語り」について解説。</p> <p>第8回 「キャラメル工場から」 「キャラメル工場から」（佐多稲子）の「語り」について解説。</p> <p>第9回 「ざくろ」 「ざくろ」（川端康成）の「語り」について解説。</p> <p>第10回 「Kの昇天」 「Kの昇天」（梶井基次郎）の「語り」について解説。</p> <p>第11回 「山月記」 「山月記」（中島敦）の「語り」について解説。</p> <p>第12回 「パン屋再襲撃」 「パン屋再襲撃」（村上春樹）と、これを映画化した山川直人の映像作品とを比較検討し、文学と映像表現の関係について解説。</p> <p>第13回 「いちょうの実」 「いちょうの実」（宮沢賢治）と、これを漫画化した大島弓子の作品とを比較検討し、文学と漫画との関係について解説。</p> <p>第14回 「列車」 「列車」（太宰治）の「語り」について解説し、これまでの講義の概要を再確認する。</p> <p>第15回 総括 文学作品を読むとはどういう行為かについて解説し、講義を総括する。</p>
授業概要	児童文学から現代小説まで、幅広い作品を素材に、小学校から高校に至る教育現場との関係を中心に、映像、漫画など、他のメディアと文学の関係も視野に入れつつ、文学作品を読むことの意味について考えてみたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	興味を持った作家について、できるだけ多くの作品を読んでください。
テキスト	プリント配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	短篇作品の「読み」を中心とした講義を予定しています。毎回、作品を読みますので、積極的に授業に参加して下さい。時には、意見を求める（レポート等）場合もあります。なるべく興味・関心を引くように、時事的話題を適宜取り入れて講義を進めていくつもりです。
評価方法	授業への積極的な参加度（50%）、期末レポート（30%）、小レポート（20%）
参考文献	講義の中で適宜紹介予定。
備考	

講義科目名称：国語学講読一（10510）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	近世江戸語・上方語、他の地方語によって書かれた諸文献について国語学的に講読する。到達目標は以下の3点。 Ⅰ いわゆる古典文学の文体とは異なる文章体を取り扱うため、それぞれの文章様式に馴れること Ⅱ 文章のアウトラインを掴みながら「読む」ことに習熟すること Ⅲ 近世当時の中央語の流れについて大要を理解すること
授業計画	<p>第1回 導入 近世江戸語・上方語について概要を説明する</p> <p>第2回 『雑兵物語』について 『雑兵物語』概説</p> <p>第3回 『雑兵物語』の諸本について 伝存する本文の説明</p> <p>第4回 『雑兵物語』を読む①（文末表現） 文末表現に注意しながら本文を読む</p> <p>第5回 『雑兵物語』を読む②（東国地方語） 東国地方特有の表現について注意しながら読む</p> <p>第6回 洒落本『遊子方言』について 『遊子方言』概説</p> <p>第7回 『遊子方言』を読む①（登場人物の言葉遣い） 登場人物の言葉遣いの違いについて注意しながら読む</p> <p>第8回 『遊子方言』を読む②（『雑兵物語』との比較） 位相的観点から『雑兵物語』の表現上の差異性について検討する</p> <p>第9回 本居宣長著『古今集遠鏡』を読む①（和歌を口語訳することの意味） 『古今集遠鏡』概説</p> <p>第10回 本居宣長著『古今集遠鏡』を読む②（釈文を読む） 和歌のレトリックに注意しながら訳文がどうなっているかに注意して解説を読む</p> <p>第11回 本居宣長著『古今集遠鏡』を読む③（訳文を読む） 和歌の風合いと当時の話し言葉のニュアンスとの乖離に注意しながら訳文を検討する</p> <p>第12回 『遠鏡』同時代の影響について 尾崎雅嘉著『古今和歌集鄙言』との関連</p> <p>第13回 『遠鏡』後代への影響について① 尾崎雅嘉著『古今和歌集鄙言』との訳文比較</p> <p>第14回 『遠鏡』後代への影響について② 中村知至著『遠鏡補正』を中心に</p> <p>第15回 まとめと口頭試問についての説明 14回分の講述内容をさらい、前期試験期間中に実施する筆記試験について説明する</p>
授業概要	授業担当者による講読と、受講生自らによる講読と、併せて行います。受講生による講読では、テキストを音読し、概要について説明を求めることとします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理しておくこと。
テキスト	必要に応じて印刷して配布いたします。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	担当者による講読においては、トピックごとに整理して読むこととし、ついで受講生にも担当範囲を決めて読む練習をすることで、一方的な授業の進め方にならないように配慮したい。
評価方法	前期試験期間中に行う筆記試験によって評価する(100%)。
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語大事典』（朝倉書店） 佐田智明『国語意識史研究』（おうふう） ほか
備考	



講義科目名称：国語学講読二（10520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会言語学の基礎的知見を広げることを目標とします。		
授業計画	第1回	導入 身近な言語事象	
	第2回	社会言語学とは何か1 ことばの種類	
	第3回	社会言語学とは何か2 ことばの選択、変化	
	第4回	話し手に根ざしたことば	
	第5回	役割語と「らしさ」	
	第6回	聞き手に合ったことば	
	第7回	相手との距離 アコモデーションとポライトネス	
	第8回	状況に合ったことば	
	第9回	時と場面	
	第10回	話題と機能	
	第11回	地域に根ざしたことば 地域方言と社会方言	
	第12回	方言コンプレックスの時代 秋田、出雲、東京	
	第13回	日本語の人称表現	
	第14回	ことばの変化	
	第15回	まとめと試験	
授業概要	ことばを生きたものにとらえ、時と場合により多様に使い分けられることを研究するのが社会言語学です。リアル社会で使われる等身大の日本語を観察し、またヴァーチャル世界のことばと比較しながら、自身のことばをみつめてみましょう。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配布されたプリントを整理して理解するように努めましょう。		
テキスト	石黒圭『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社文庫 840円＋税 さわらび会購買部でも販売します。プリントを併用します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「上手な」ではなく、「正しい」でもなく、「ふさわしい」日本語とは何か、ことば選びの科学について考えましょう。視聴覚教材も使用します。		
評価方法	試験80%、授業への参加度20%。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：国語学講読三（10530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	手紙文の様式、使われる語の性質について、理解を深めることをテーマとし、到達目標は以下3点とする。 Ⅰ 近世書状(私的文章)に使われる待遇表現について理解する Ⅱ 古典語と近代語との間での意味・用法差について理解する Ⅲ 原本の影印資料に触れ、連綿体の文字が解読できる
授業計画	<p>第1回 消息文の様式（導入） 授業計画、評価方法の説明、「変体かな」「草書体」を解読することについて、近世書簡文の諸相について説明する</p> <p>第2回 藤井高尚の事蹟と『消息文例』について 国学者としての藤井高尚の業績について説明する</p> <p>第3回 本居宣長による序文と鳥越常成による跋文を読む 本居宣長との、また鳥越常成との、それぞれの関係性を捉えた後に、序跋を読む</p> <p>第4回 『消息文例』凡例を読む 『消息文例』執筆の動機ならびに狙いとするところを理解する</p> <p>第5回 「文におのが事を言ふ例」 書き言葉での自称の表現について理解する</p> <p>第6回 「文にさきの人の事を言ひ遣る例」 書き言葉での対称の表現について理解する</p> <p>第7回 「候ふ 侍る」 丁寧語「侍り」と「候ふ」の消長について理解する</p> <p>第8回 「思ひたまへ」 古典講読の際の躰きとなり易い、二つの敬語動詞「たまふ」について、意味・用法の相違点を理解する</p> <p>第9回 「申す」「聞こゆ」 二つの謙讓語動詞を「関係規定性」の観点からその差異について理解する</p> <p>第10回 「せ させ」 尊敬の助動詞の使い方について理解する</p> <p>第11回 「奉る」 謙讓語動詞の生成と展開について理解する</p> <p>第12回 「御」 中古における敬語接頭辞の使われ方について理解する</p> <p>第13回 「仕うまつる」「まゐらせ まゐる」 「進上スル」意の謙讓語の使い方について理解する</p> <p>第14回 「御覧ず」「ものす」 漢語由来の尊敬動詞と手紙文に多用される「ものす」について理解する</p> <p>第15回 まとめと口頭試問についての説明 読み来たった箇所の要点をさらい、試験期間中に実施する口頭試問の方法について説明する</p>
授業概要	藤井高尚『消息文例』上巻を採り上げて、併せて下巻の関連事項も取り扱いながら、原文を読み、解説を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理しておくこと。
テキスト	和泉書院影印叢刊『消息文例』（本体価格2,000円＋税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	担当者による講読においては、トピックごとに整理して読むこととし、ついで受講生にも担当範囲を決めて読む練習ならびに発表を行うことで、一方的な授業の進め方にならないように配慮したい。
評価方法	「読み」発表の成果による評価（40%） 後期試験期間中に行う口頭試問による評価（60%）
参考文献	『岩波講座日本語4敬語』（岩波書店） 『講座国語史5敬語史』（大修館書店） 『国語学叢書13敬語』（東京堂出版） 久曾神昇『平安時代仮名書状の研究』（風間書房）
備考	

講義科目名称：国語学講読四（10540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代の国語辞典について学びます。日本語の秘密が詰まっている〈辞書〉の個性、素顔を解明することを目的とします。
授業計画	<p>第1回 導入 ジショとは何か</p> <p>第2回 辞書の理念</p> <p>第3回 近代国語辞書の歩み 1 言海</p> <p>第4回 近代国語辞書の歩み 2 言海以降</p> <p>第5回 辞書の表情</p> <p>第6回 編集方針</p> <p>第7回 辞書の種類</p> <p>第8回 広辞苑</p> <p>第9回 大辞泉</p> <p>第10回 辞書への批評</p> <p>第11回 新明解</p> <p>第12回 出版社の顔</p> <p>第13回 『舟を編む』と国語辞書</p> <p>第14回 近代から現代へ 辞書から辞典へ</p> <p>第15回 まとめ試験</p>
授業概要	近代から現代までの国語辞書の歴史に触れ、辞書とはどういうものか、基礎的素養を身につけましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを読み返し、配布プリントを整理して、課題とした語句について、国語辞典で調べることを求めます。
テキスト	石山茂利夫『裏読み深読み国語辞書』草思社文庫 680円＋税 さわらび会購買部でも販売します。多数のプリントを併用します。ファイルを用意して各自綴じてください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	現代日本語の、最強にして信頼感のある〈リーダー〉国語辞典について、日本人の文化や社会との関わりから一緒に考えてみましょう。小型の国語辞典を持参してください。調べ学習に使います。
評価方法	試験80%、授業への参加度20%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：国語学特講（10550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山本 淳			

授業のテーマ及び到達目標	国語学・日本語学の全般的な知識を高めるために以下の目標を設定して講述する I 「国語学・日本語学」とはどのような領域の学問か、全体像を把握する II 前期開講「国語学概論」の内容を承け、日本語学の基礎的な知見をより確かなものにする		
授業計画	第1回	日本語の音声・音韻	
	第2回	日本語の標準アクセント	
	第3回	日本語の音韻史	
	第4回	日本語の文字	
	第5回	日本語の語彙 とくに語種・意義分類について	
	第6回	日本語の語彙 とくに辞書の話	
	第7回	日本語の敬語とその歴史	
	第8回	日本語の文法学説	
	第9回	文論	
	第10回	品詞論	
	第11回	日本語の文法史	
	第12回	日本語文章の諸相	
	第13回	日本語の文体	
	第14回	日本語の方言と標準語 方言概説	
	第15回	日本語の方言と標準語 方言分布について	
授業概要	テキストおよび配付資料を基に国語学・日本語学の研究分野についての基礎的・全般的内容を講述する。テーマごとに簡単なペーパーテストを行い、受講生の理解度を確認しながら授業を進める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。授業終了後再びテキストを読み直し、重要項目について整理し、さらに練習問題で理解度を確認しておくこと。		
テキスト	藤田保幸著『緑の日本語学教本』・A5判・並製・カバー装（緑）・171頁・定価1,365円（9月末まで）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	編入学希望者で、編入学試験に日本語学関連の専門科目が課される方は受講なさるとよいと思います。学年指定はありませんが、履修はぜひ2年次でお願いしたいと思います。各回に行う試験が理解の助けになったとの意見がありましたので、今年度もテーマごとに試験を行います。		
評価方法	毎時間に実施する小テストによる評価(100%)		
参考文献	『日本語学研究事典』（明治書院） 『日本語学キーワード事典』（朝倉書店） 『日本語百科大事典』（大修館書店）		
備考			

講義科目名称：日本語文書・表現プログラム（10560）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修・教職必修
担当教員			
田中 宣廣			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>①社会人として必要なコミュニケーションの意義が理解できる。                  ②コミュニケーションと文章表現の関係について理解できる。                  ③現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法が理解できる                  ④社会人として、日本語のさまざまな社会的書き方の社会的役割を正しく認識し、理解できる。                  ⑤インターネット資料の適切な利用法について理解できる。                  ⑥Excelによる文書作成やPowerPointによる資料作成の初歩について理解できる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義プログラムの説明 / 目的別「社会的文書」作成法・使用法</p> <p>第2回 「履歴書」作成法</p> <p>第3回 就職志望動機文・エントリーシート，編入学志望理由文の構成法</p> <p>第4回 「手紙」の書き方と発送，「Eメール」の構成法と送信</p> <p>第5回 就職活動における企業と学生との関わり方</p> <p>第6回 社会人となる心構え～インターンシップ活用法</p> <p>第7回 パソコンによる論文やレポートの作成学習の意義</p> <p>第8回 文書作成におけるパソコン利用のメリットとその活用法</p> <p>第9回 文章の階層構造とその表示法</p> <p>第10回 PowerPointによる資料作成法初歩</p> <p>第11回 Excelによる文書作成法初歩</p> <p>第12回 Web資料活用の注意 / 図表の作成と効果的提示法（Word，PowerPoint）</p> <p>第13回 パソコン作成の文書のファイル管理やバックアップの重要性</p> <p>第14回 パソコンで論文やレポートを作成するときの基本操作 +日本語のローマ字</p> <p>第15回 まとめ：入門的學生論文の構成例～論文やレポートにおける注釈の効果的使用法</p>
授業概要	<p>①社会人として必要なコミュニケーションの意義を学習します。②コミュニケーションと文章表現の関係について学習します。③現在の論文やレポート作成の主流であるパソコンを使った作成法を学習します。④インターネット資料の適切な利用法について学習します。⑤Excelによる文書作成やPowerPointによる資料作成の初歩的段階を学習します。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各授業回の講義内容の整理
テキスト	教員作成印刷配布資料を用い、投影資料（パワーポイントなど）により進めます。また、必ず、この科目専用のノートを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会人の文章として格式があつて型式が整えられ、しかも、明解な文書表現を学びます。特に、パソコンを使った効果的な論文やレポートの書き方は、今や常識として学んでおく必要があります。
評価方法	毎時限ごとに、「レポートシート」に記入し、提出していただきます。評価は、学修姿勢（レポートシートの内容や受講態勢など）により考査します。
参考文献	田中宣廣他（2011）『講座ITと日本語研究 第1巻 コンピュータ利用の基礎知識』（明治書院）
備考	可能な人は、ノートパソコンを持参してください。（無線インターネット接続可能ならより良い）集中講義なので、試験、もしくは、（時間の掛かる）レポートは課しません。

講義科目名称：漢文学概説（10600）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 漢文学入門</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎知識を身に付ける。</li> <li>・漢文学が日本語や日本人に与えた影響について知見を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 漢文・漢文学の定義と漢字・漢語(熟語)の基礎知識</p> <p>第3回 漢文の基礎構造と訓読法(返り点の用法と種類・書き下し文・置き字)</p> <p>第4回 句法の基本型：再読文字・使役形・受身形</p> <p>第5回 句法の基本型：否定形</p> <p>第6回 句法の基本型：疑問形・反語形</p> <p>第7回 句法の基本型：願望形・推量形</p> <p>第8回 句法の基本型：仮定形・比較形・抑揚形</p> <p>第9回 句法の基本型：限定形・詠嘆形・倒置形・累加形</p> <p>第10回 近体(今体)詩の修辞法</p> <p>第11回 日本人と漢文学：上代、平安前期</p> <p>第12回 日本人と漢文学：平安後期、鎌倉・室町</p> <p>第13回 日本人と漢文学：江戸前期</p> <p>第14回 日本人と漢文学：江戸後期</p> <p>第15回 日本人と漢文学：明治以降</p>
授業概要	10回目までは、漢文を訓読によって解釈するために必要な基礎事項を学んだ上で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識の確認・定着を図ります。11回目以降は、日本における漢文学の歴史を概観し、漢文学が日本語や日本人に与えた影響について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず復習を行い、十分に理解を深めること。なお、10回目までは配布プリントの原文について、あらかじめ辞書等で調べ、書き下し文及び現代語訳を準備しておくこと。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	高校での既習・未習を問わず、この機会に漢文学の基礎をしっかりと身に付けたいと考える学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(70%)、授業の取り組む姿勢(30%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書及び漢和辞典(電子辞書も可)を持参してください(2回～10回)。

講義科目名称：漢文学講読一（10610）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 中国古典文学の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。 ・日本人や日本文学に有形無形の影響を与えてきた中国古典文学の概要を把握するとともに、作品が書かれた、それぞれの時代の社会や文化に対する理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『史記』淮陰侯列伝から</p> <p>第3回 『論語』と『老子』『荘子』から</p> <p>第4回 『論語』と『老子』『荘子』から</p> <p>第5回 『論語』と『老子』『荘子』から</p> <p>第6回 東晋・陶淵明「桃花源記」「五柳先生伝」</p> <p>第7回 東晋・王羲之「蘭亭序」</p> <p>第8回 唐・李白「春夜宴桃李園序」、唐・韓愈「雑説一」</p> <p>第9回 唐・韓愈「雑説二・三・四」</p> <p>第10回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第11回 唐・柳宗元「種樹郭タク駝伝」</p> <p>第12回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第13回 北宋・欧陽脩「醉翁亭記」</p> <p>第14回 明・李贄「童心説」</p> <p>第15回 明・李贄「童心説」</p>
授業概要	中国古典文学の中から、古来、日本人にも親しまれてきた著名な散文作品を中心に幾つかを取り上げ、それらを講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参して下さい。

講義科目名称：漢文学講読二（10620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 「唐代伝奇」小説の世界</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓点(返り点・送りがな)付きの漢文の正確な書き下し、解釈ができるようになる。</li> <li>・現代とは異なる、当時の人々のものの考え方や感じ方について理解を深める。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「離魂記」</p> <p>第3回 「離魂記」</p> <p>第4回 「人虎伝」</p> <p>第5回 「人虎伝」</p> <p>第6回 「人虎伝」</p> <p>第7回 「板橋三娘子伝」</p> <p>第8回 「定婚店」</p> <p>第9回 「定婚店」</p> <p>第10回 「杜子春伝」</p> <p>第11回 「杜子春伝」</p> <p>第12回 「杜子春伝」</p> <p>第13回 「枕中記」</p> <p>第14回 「枕中記」</p> <p>第15回 「枕中記」</p>
授業概要	芥川龍之介の「杜子春」や中島敦の「山月記」などの日本の近代文学にも影響を与えた、唐代の文人の手に成る短編小説、「唐代伝奇」の中から数篇を取り上げ、講読していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ辞書等を利用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。
テキスト	プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	開始から数回は教員主導で読み進めていきますが、要領が分かってきた頃合いを見計って、受講者にも訓読や現代語訳に参加してもらいます。訓読能力を高めたい、或いはその必要がある学生の積極的な受講を期待します。
評価方法	学期末の試験(60%)、授業時の発表や取り組む姿勢(40%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参してください。



講義科目名称：漢文学特講（10650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 中国文学史 &lt;到達目標&gt; 先秦から唐代に至る中国文学の歴史を学ぶことを通して、中国文学各ジャンルの特色とその盛衰についての知識を得、併せて日本の文化・文学に与えた影響について知見を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、一、序論 (1)中国文学の特質 (2)&lt;言志派&gt;と&lt;載道派&gt;・&lt;達意主義&gt;と&lt;修辞主義&gt; (3)時代区分・日本との関係</p> <p>第2回 二、先秦時代の文学 (1)神話 (2)詩経 (3)散文の起源と展開「書経」「易経」</p> <p>第3回 二、秦漢時代の文学 (3)散文の起源と展開「諸子百家の散文」「孔子」「孟子」「韓非子」「老子」「荘子」「春秋左氏伝」「国語」「戦国策」 (4)楚辞</p> <p>第4回 三、秦漢の散文 (1)秦 (2)漢「史記」「班固」「漢書」「論衡」</p> <p>第5回 四、漢代の韻文学 (1)駢文の起源 (2)辞賦・楽府・古詩十九首 (3)辞賦</p> <p>第6回 四、漢代の韻文学 (4)楽府 (5)古詩 (6)古詩十九首</p> <p>第7回 五、魏晉南北朝の文学 (1)建安の文学「曹操」「曹丕」「曹植」「竹林の七賢」</p> <p>第8回 五、魏晉南北朝の文学 (2)晋の詩「陶淵明」「謝靈運」</p> <p>第9回 五、魏晉南北朝の文学 (3)齊・梁の宮廷文学「『文選』」「駢文」「文学評論」「小説」</p> <p>第10回 六、隋・唐の文学 (1)隋の文学 (2)唐代文学「初唐の詩」</p> <p>第11回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「盛唐の詩」「李白」「絶句について」</p> <p>第12回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「杜甫」「その他の盛唐の詩人」</p> <p>第13回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「中唐の詩文」「韓愈」「柳宗元」</p> <p>第14回 六、隋・唐の文学 (2)唐代文学「白居易」</p> <p>第15回 六、隋・唐の文学 (2)唐代時代「晩唐の詩人」「小説」「唐の詞と五代の詞」</p>
授業概要	テキストに沿いながら、必要に応じて資料を交え、先秦から唐代に至る中国文学の歴史を概観していきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後には必ず授業時のノートやメモを参照しながらテキストを読み直し、理解の定着を図ること。
テキスト	佐藤一郎[著]『中国文学史』（慶應義塾大学出版社） 1,296円（税込価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国文学に興味関心のある学生は勿論、四年制大学への編入試験で中国文学、文学史に関する知識が必要となる学生の積極的な参加を期待します。
評価方法	学期末のレポート(80%)、授業時の取り組む姿勢(20%)をあわせて評価します。
参考文献	必要に応じてその都度指示します。
備考	

講義科目名称：漢文学専門ゼミ一（10660）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 実践的な漢文訓読能力を身に付ける。 〈到達目標〉 句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「毛カイ公方」</p> <p>第3回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「毛カイ公方」</p> <p>第4回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「袁オウ郤坐」</p> <p>第5回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「衛カン撫牀」</p> <p>第6回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「于公高門 曹參趣装」</p> <p>第7回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「庶女振風 鄒衍降霜」</p> <p>第8回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「范冉生塵 晏嬰脱粟」</p> <p>第9回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「詰汾興魏 鼈令王蜀」</p> <p>第10回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「不疑誣金」</p> <p>第11回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「卞和泣玉」</p> <p>第12回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「檀卿沐猴 謝尚クヨク」</p> <p>第13回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「檀卿沐猴 謝尚クヨク」</p> <p>第14回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「太初日月 季野陽秋」</p> <p>第15回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「荀陳徳星 李徳仙舟」</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では和刻本『箋註蒙求校本』を会読していくことを通して実践的な漢文訓読能力を身に付けていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>あらかじめ辞書等を活用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。</p>
テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも漢文をより読めるようになりたいと思う人がいれば受講を熱烈歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%)、授業時の取り組む姿勢(50%)</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法」の教科書と漢和辞典(電子辞書も可)を毎回持参してください。</p>

講義科目名称：漢文学専門ゼミ二（10661）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
渡部 東一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 実践的な漢文訓読能力を身に付ける。 〈到達目標〉 句読点のみ、或いは句読点及び返り点のみの漢文でも正確に訓読、解釈できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「枚臯詣闕」</p> <p>第3回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「充國自贊」</p> <p>第4回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「充國自贊」</p> <p>第5回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「王衍風鑒」</p> <p>第6回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「王衍風鑒」</p> <p>第7回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「許劭月旦」</p> <p>第8回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「賀循儒宗 孫綽才冠」</p> <p>第9回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「大叔辯給 摯仲辭翰」</p> <p>第10回 和刻本『箋註蒙求校本』の会読：巻上「山濤識量」</p> <p>第11回 編入学試験過去問の演習、解答・解説</p> <p>第12回 編入学試験過去問の演習、解答・解説</p> <p>第13回 編入学試験過去問の演習、解答・解説</p> <p>第14回 編入学試験過去問の演習、解答・解説</p> <p>第15回 編入学試験過去問の演習、解答・解説</p>
授業概要	<p>四年制大学の編入学試験の漢文の問題は、学校によっては句読点、或いは句読点及び返り点しか付されていない文章が出題されるため、それなりの漢文訓読能力が必要になります。授業では和刻本『箋註蒙求校本』を会読していくことを通して実践的な漢文訓読能力を身に付けるとともに、11回目以降は過去問の演習、解答・解説を行います。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>あらかじめ辞書等を活用して、自分なりの書き下し文と現代語訳を準備した上で授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い、十分に理解を深めること。</p>
テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>四年制大学の編入学試験で漢文が出題される学校の受験を考えている学生を主たる対象とする授業ですが、そうでない学生でも漢文をより読めるようになりたいと思う人がいれば受講を熱烈歓迎します。</p>
評価方法	<p>学期末の試験(50%) 授業時の取り組む姿勢(50%)</p>
参考文献	<p>必要に応じてその都度指示します。</p>
備考	<p>高校等で使用した「漢文文法の教科書及び漢和辞典」（電子辞書も可）を毎回持参してください。</p>

講義科目名称：国文学演習一(10710)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	前期は、発表担当者による『源氏物語』 「御法」 巻の輪読と研究発表を通して、作品の表現や主題、本質を明らかにします。 後期は、個人の研究テーマに沿った発表を通して作品理解を深め、卒業研究につなげます。
授業計画	第1回 導入 第2回 『源氏物語』 概説 第3回 『源氏物語』 の研究方法 第4回 『源氏物語』 「御法」 巻の輪読一紫の上の出家願望一 第5回 「御法」 巻の輪読一紫の上の法華経千部供養一 第6回 「御法」 巻の輪読一紫の上と明石の君の贈答歌一 第7回 「御法」 巻の輪読一紫の上と花散里の贈答歌一 第8回 「御法」 巻の輪読一明石中宮の退下一 第9回 「御法」 巻の輪読一紫の上の遺言一 第10回 「御法」 巻の輪読一中宮の見舞い一 第11回 「御法」 巻の輪読一紫の上の辞世歌一 第12回 「御法」 巻の輪読一紫の上の死一 第13回 「御法」 巻の輪読一故紫の上の落飾一 第14回 「御法」 巻の輪読一紫の上の死の描写一 第15回 「御法」 巻の輪読一紫の上の葬送一 第16回 研究発表の方法 第17回 受講者による研究発表① 第18回 受講者による研究発表② 第19回 受講者による研究発表③ 第20回 受講者による研究発表④ 第21回 受講者による研究発表⑤ 第22回 受講者による研究発表⑥ 第23回 受講者による研究発表⑦ 第24回 受講者による研究発表⑧

	第25回	受講者による研究発表⑨
	第26回	受講者による研究発表⑩
	第27回	受講者による研究発表⑪
	第28回	受講者による研究発表⑫
	第29回	受講者による研究発表⑬
	第30回	まとめ
授業概要	前期は、『源氏物語』「御法」巻の輪読をします。物語の第二部終盤、光源氏の愛妻・紫の上の死を語るこの巻には、『源氏物語』全体の問題が濃縮されています。注釈書を利用しながら原文に向き合い、作品の正確な理解を踏まえて自らの解釈に至ることを目的とします。後期は、個人の研究発表を通して作品理解を深めます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	前期は輪読発表を中心に進めます。発表日の3・4週間前から調査・研究を始めて授業に臨んで下さい。後期は自由研究の発表を通して卒業研究に繋がります。日頃から問題意識を以て授業に臨んで下さい。	
テキスト	玉上琢彌訳注『源氏物語 第7巻』（角川ソフィア文庫）、定価907円（税別）	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の読解は参加者全員が意見を出し合い、切磋琢磨することによって深まります。積極的な質疑応答への参加を期待します。	
評価方法	授業における研究発表（20%）、レポート（70%）、授業への参加の度合い（10%）で評価する。	
参考文献	『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 玉上琢彌『源氏物語評釈』全12巻、角川書店 林田孝和ほか編『源氏物語事典』大和書房	
備考		

講義科目名称：国文学演習二（10720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
石川 秀巳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	江戸時代後期、大阪の町人学者尾崎雅嘉の編んだ「百人一首」注釈書『百人一首一夕話』を、次の2点を目標として読んでいく。 （1）近世における「百人一首」解釈の変遷の中で、本書の解釈を位置づけることができる。 （2）本書が豊富に載せる「百人一首」歌人の逸話について、辞典・事典類を活用して典拠を確認することができる。		
授業計画	第1回	在原業平朝臣「ちはやふる」歌を例として、演習の方法、年間計画を確認	
	第2回	「百人一首」の成立・享受と『百人一首一夕話』概説	
	第3回	中納言行平「たちわかれ」歌を例に（講述。次回以降、学生の発表）	
	第4回	清原元輔「ちぎりきな」歌の解釈と逸話の典拠	
	第5回	元良親王「わびぬれば」歌の解釈と逸話の典拠	
	第6回	平兼盛「しのぶれど」歌の解釈と逸話の典拠	
	第7回	凡河内躬恒「こころあてに」歌の解釈と逸話の典拠	
	第8回	河原左大臣「みちのくの」歌の解釈と逸話の典拠	
	第9回	喜撰法師「わがいほは」歌の解釈と逸話の典拠	
	第10回	猿丸大夫「おくやまに」歌の解釈と逸話の典拠	
	第11回	壬生忠岑「ありあけの」歌の解釈と逸話の典拠	
	第12回	貞信公「をぐらやま」歌の解釈と逸話の典拠	
	第13回	権中納言敦忠「あひみでの」歌の解釈と逸話の典拠	
	第14回	右大将道綱母「なげきつつ」歌の解釈と逸話の典拠	
	第15回	米沢本『百人一首抄』後半の輪読及びキーワードの抽出・調査	
	第16回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠①	
	第17回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠②	
	第18回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠③	
	第19回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠④	
	第20回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑤	
	第21回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑥	
	第22回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑦	
	第23回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑧	
	第24回	『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑨	

	<p>第25回 『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑩</p> <p>第26回 『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑪</p> <p>第27回 『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑫</p> <p>第28回 『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑬</p> <p>第29回 『百人一首一夕話』の歌の解釈と逸話の典拠⑭</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業概要	前期は『百人一首一夕話』巻一～巻五の中から教員の指定した歌について調べ、報告してもらう。後期は、巻六～巻九（テキスト＝岩波文庫本（下））の中から自分で対象歌を選択し、調査・報告する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	未注釈の著作を資料とするので、事前に古語辞典等をこまめに引いて本文を理解しておくこと。
テキスト	配布プリント 及び、尾崎雅嘉著・古川久校訂 『百人一首一夕話（下）』（岩波文庫）1020円（税込価格）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「百人一首」に関わる江戸時代の文献・資料類（多くは未翻刻）を配布するので、くずし字の習得にも心掛けてほしい。
評価方法	・演習発表のために作成した配布資料の的確さ、詳細さから評価（80%）・報告に対する質疑の的確さ（20%）
参考文献	鈴木日出男 『原色小倉百人一首』（文英堂 税抜 550円）も購入するのが望ましい。
備考	

講義科目名称：国文学演習三（10730）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
佐々木 紀一			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世の代表的物語『酒天童子』・『伊吹童子』の内容を読み解き、その成立の諸問題を考察します。		
授業計画	第1回	導入 酒天童子とは何者か？ 伊吹童子諸本 大英博物館本・東洋大本・国会本・赤木本	
	第2回	酒天童子諸本について 香取本・サントリー本・中京大本・呆犬齋本	
	第3回	酒天童子関連物語・伝説の展開	
	第4回	酒天童子発表のため諸道具、発表の形式について	
	第5回	受講生の発表1（伊吹童子対応扇面絵）	
	第6回	受講生の発表2（伊吹童子対応扇面絵）	
	第7回	受講生の発表3（伊吹童子対応扇面絵）	
	第8回	受講生の発表4（伊吹童子対応扇面絵）	
	第9回	受講生の発表5（伊吹童子対応扇面絵）	
	第10回	受講生の発表6（伊吹童子対応扇面絵）	
	第11回	受講生の発表7（伊吹童子対応扇面絵）	
	第12回	受講生の発表8（伊吹童子対応扇面絵）	
	第13回	受講生の発表9（伊吹童子対応扇面絵）	
	第14回	受講生の発表10（酒天童子対応扇面絵）	
	第15回	受講生の発表11（酒天童子対応扇面絵）	
	第16回	受講生の発表12（酒天童子対応扇面絵）	
	第17回	受講生の発表13（酒天童子対応扇面絵）	
	第18回	受講生の発表14（酒天童子対応扇面絵）	
	第19回	受講生の発表15（酒天童子対応扇面絵）	
	第20回	受講生の発表16（酒天童子対応扇面絵）	
	第21回	受講生の発表17（酒天童子対応扇面絵）	
	第22回	受講生の発表18（酒天童子対応扇面絵）	
	第23回	受講生の発表19（酒天童子対応扇面絵）	
	第24回	受講生の発表20（酒天童子対応扇面絵）	
	第25回	受講生の発表21（酒天童子対応扇面絵）	



	<p>第26回 受講生の発表22 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第27回 受講生の発表23 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第28回 受講生の発表24 (酒天童子対応扇面絵)</p> <p>第29回 受講生の討論 (酒天童子の物語世界、成立について)</p> <p>第30回 総論—酒天童子とは何者か</p>
授業概要	<p>絵画資料『酒天童子扇面絵』に対応する物語 (前半生『伊吹童子』、後半生と源頼光による退治『酒天童子』) を前期・後期で通読、宛てられた箇所を各自読解し、中世の物語・民俗信仰との関係等の諸問題を考へる発表をします。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>香取本、サントリー本、中京大本の精読対照、関連文献 (土蜘蛛草子、「太平記」巻32「鬼丸鬼切事」等)、関連物語 (鈴鹿草子、俵藤太物語等) の参照。口承文芸、民間信仰等、幅広く知見を広めること</p>
テキスト	<p>大英図書館蔵『伊吹童子』・渋川版『酒天童子』</p>
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>中世以降、最近まで源頼光の酒天童子は、子供達や大人にとっても血肉沸き踊る物語でした。その伝統が途絶してある現在、改めてこの物語の内容に触れ、楽しむと共に、その危険な魅力に触れ、様々な中世物語や鬼退治の民間伝承との関係について考へていきます。</p> <p>呆犬齋文庫蔵の各種『酒天童子』絵巻・資料をお見せいたします。</p>
評価方法	<p>演習の発表 (100%) 一人年間3-4回発表です。</p>
参考文献	<p>佐竹昭広『酒天童子異聞』、高橋昌明『酒天童子の誕生』</p>
備考	

講義科目名称：国文学演習四（10740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
岡 英里奈			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	明治30～40年代の短篇小説の読解を、演習形式で行う。作品内の語句や事象について細かい注釈をつけること、先行研究を調査・整理すること、それらを踏まえたうえで自分なりの読解や考察を提示することを通して、レポートや卒業論文を書く際に必要な力を磨く。同時に、各作品について自由に議論し、20世紀初頭に日本で生まれた文学の面白さや問題点について各自の考察を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス テキスト、年間計画、授業形態について説明。報告者の選定。</p> <p>第2回 明治後半期の文学について概説</p> <p>第3回 夏目漱石「倫敦塔」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第4回 寺田寅彦「団栗」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第5回 大塚楠緒子「上下」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第6回 正宗白鳥「塵埃」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第7回 田山花袋「一兵卒」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第8回 徳田秋声「二老婆」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第9回 小栗風葉「世間師」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第10回 島崎藤村「一夜」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第11回 永井荷風「深川の唄」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第12回 近松秋江「雪の日」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第13回 卒業研究構想発表①</p> <p>第14回 卒業研究構想発表②</p> <p>第15回 卒業研究構想発表③</p> <p>第16回 志賀直哉「剃刀」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第17回 小川未明「薔薇と巫女」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第18回 水上瀧太郎「山の手の子」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第19回 谷崎潤一郎「秘密」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第20回 長田幹彦「霽」 グループ報告と議論による読解</p> <p>第21回 個人研究発表①</p> <p>第22回 個人研究発表②</p> <p>第23回 個人研究発表③</p> <p>第24回 個人研究発表④</p>

	第25回	個人研究発表⑤
	第26回	個人研究発表⑥
	第27回	個人研究発表⑦
	第28回	個人研究発表⑧
	第29回	個人研究発表⑨
	第30回	個人研究発表⑩
授業概要	毎回、報告者とディスカッサント(質問者、議論のまとめ役)を設定し、それぞれの意見を交わし合うことで、各自の読解を深めていく。そのプロセスを繰り返すことで、既存の価値付けにとらわれずに、文学をおもしろく読む力を養っていく。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	発表担当者以外の人、対象作品を読み、疑問点や自分なりの考え、みんなと議論したいことを整理して行く。	
テキスト	紅野敏郎ほか編『日本近代短篇小説選 明治篇2』(岩波書店、900円+税)	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	作品を読んで、皆さんが面白い、あるいはつまらないと思ったところ、疑問に思ったところを大事にしていきたいと思います。そこにどのような調査や考察を加えていくと、一つの論としてレポートや論文のかたちに見合う「読み」になっていくのか、一緒に学習していきましょう。皆さんそれぞれの視点や意見をもとに授業を組み立てていくので、積極的な態度・発言を期待します。	
評価方法	授業中の報告内容(30%)、質疑などの発言(20%)、レポート課題(50%)によって評価する。	
参考文献	授業中に適宜提示する。	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
馬場 重行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>①自分の「読み」にはられた課題を自己発見し、他にそれを伝えるような工夫をします。</p> <p>②相互の意見交換を通じて、自分と他の人との「読み」の位相を確認し、そこを基点として議論の展開を目指します。</p> <p>③レポートを書くことで自らの「読み」を再確認します。</p> <p>以上を通して、「読み」による＜創造的な自己発見と他者理解＞を手に入れ、自身の課題探求能力を高めることを目指します。</p>
授業計画	<p>第1回 年間計画、文学作品を「読むこと」 発表担当作品等の年間計画を立て、演習形式で小説を「読むこと」の目的と意義について説明。報告者は1週間前にレジメを配布、受講者は作品とレジメを必ず読んで授業に参加する。報告者の問題提起を中心とした質疑応答を行い、特に「語り」の問題を考えることで「作品の意思」を考察する。以下、これを踏襲。</p> <p>第2回 年間計画策定、村上春樹の文学世界について① 表担当作品等の年間計画を策定し、村上春樹の文学世界について解説①。</p> <p>第3回 村上春樹の文学世界について② 村上春樹の文学世界について解説②。</p> <p>第4回 「パン屋再襲撃」 「パン屋再襲撃」を演習形式で読む。</p> <p>第5回 「象の消滅」 「象の消滅」を演習形式で読む。</p> <p>第6回 「ファミリー・アフエア」 「ファミリー・アフエア」を演習形式で読む。</p> <p>第7回 「双子と沈んだ大陸」 「双子と沈んだ大陸」を演習形式で読む。</p> <p>第8回 「ローマ帝国の崩壊・一八八一年のインディアン蜂起・ヒットラーのポーランド侵入・そして強風世界」 「ローマ帝国の崩壊・一八八一年のインディアン蜂起・ヒットラーのポーランド侵入・そして強風世界」を演習形式で読む。</p> <p>第9回 「ねじまき鳥と火曜日の女たち」 「ねじまき鳥と火曜日の女たち」を演習形式で読む。</p> <p>第10回 「レキシントンの幽霊」① 「レキシントンの幽霊」を演習形式で読む①。</p> <p>第11回 「レキシントンの幽霊」② 「レキシントンの幽霊」を演習形式で読む②。</p> <p>第12回 「緑色の獣」 「緑色の獣」を演習形式で読む。</p> <p>第13回 「沈黙」① 「沈黙」を演習形式で読む①。</p> <p>第14回 「沈黙」② 「沈黙」を演習形式で読む②。</p> <p>第15回 「氷男」 「氷男」を演習形式で読む。</p> <p>第16回 「トニー滝谷」 「トニー滝谷」を演習形式で読む。</p> <p>第17回 「七番目の男」① 「七番目の男」を演習形式で読む①。</p> <p>第18回 「七番目の男」② 「七番目の男」を演習形式で読む②。</p> <p>第19回 「めくらやなぎと、眠る女」① 「めくらやなぎと、眠る女」を演習形式で読む①。</p> <p>第20回 「めくらやなぎと、眠る女」② 「めくらやなぎと、眠る女」を演習形式で読む②。</p> <p>第21回 「UFOが釧路に降りる」① 「UFOが釧路に降りる」を演習形式で読む①。</p> <p>第22回 「UFOが釧路に降りる」②</p>

	<p>「UFOが釧路に降りる」を演習形式で読む②。</p> <p>第23回 「アイロンのある風景」① 「アイロンのある風景」を演習形式で読む①。</p> <p>第24回 「アイロンのある風景」② 「アイロンのある風景」を演習形式で読む②。</p> <p>第25回 「神の子どもたちはみな踊る」 「神の子どもたちはみな踊る」を演習形式で読む。</p> <p>第26回 「タイランド」 「タイランド」を演習形式で読む。</p> <p>第27回 「かえるくん、東京を救う」 「かえるくん、東京を救う」を演習形式で読む。</p> <p>第28回 「蜂蜜パイ」① 「蜂蜜パイ」を演習形式で読む①。</p> <p>第29回 「蜂蜜パイ」② 「蜂蜜パイ」を演習形式で読む②。</p> <p>第30回 総括 村上春樹の文学世界を「読むこと」の意味について、全体で討議する。</p>
授業概要	村上春樹の短編小説を用いて、「読み」の意義を、特に「語り」の問題を中心に考えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	長編小説も含め、村上春樹の作品をできるだけ多く読んでください。
テキスト	『パン屋再襲撃』（村上春樹著、文春文庫）『レキシントンの幽霊』（村上春樹著 文春文庫）、『神の子どもたちはみな踊る』（村上春樹著 新潮文庫） 参考書：『増補版・村上春樹作品研究事典』（村上春樹研究会編 鼎書房）他。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①毎回、必ず当該作品を読んでくること。②質疑応答に積極的に加わること。③他の人との「読み」の相違を大切に、「読み」の方法を習得すること。昨年まで以上に、発言の交流に工夫を凝らす予定です。「立派な発言」や「正しい答え」は求めません。「一生懸命に読んで、真剣に発言している」姿勢をこれまで以上に大切にします。
評価方法	授業への積極的な参加度（50%）、期末レポート課題（50%）
参考文献	演習の中で適宜紹介予定。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
山本 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	近世庶民の言葉について理解することをテーマとして、以下目標2点定める。 Ⅰ いわゆる戯作文学についての理解を深める Ⅱ 江戸時代の板本の様式に馴れつつ、連綿体の文字が解読できる		
授業計画	第1回	幕末期戯作について	
	第2回	十返舎一九の事蹟と作品について	
	第3回	一九の言語観について	
	第4回	近世名古屋方言について	
	第5回	『四篇の綴足』概説	
	第6回	『四篇の綴足』序文を読む 教授者による講読	
	第7回	『四篇の綴足』凡例を読む 教授者による講読	
	第8回	『四篇の綴足』上を読む①（弥次郎・喜多八登場の場面） 教授者による講読	
	第9回	『四篇の綴足』上を読む②（宮駅界限） 教授者による講読	
	第10回	『四篇の綴足』上を読む③（宮駅宿泊） 教授者による講読	
	第11回	『四篇の綴足』上を読む④（神戸の様子） 教授者による講読	
	第12回	『四篇の綴足』上を読む⑤（妙夢の話） 教授者による講読	
	第13回	『四篇の綴足』上を読む⑥（二十五挺橋の件） 教授者による講読	
	第14回	『四篇の綴足』上を読む⑦（肴売とのいさくさ） 教授者による講読	
	第15回	『四篇の綴足』上のおさらい	
	第16回	演習の説明	
	第17回	『四篇の綴足』下を読む①（熱田の杜の場面） 受講生による発表	
	第18回	『四篇の綴足』下を読む②（境内の灯籠の場面） 受講生による発表	
	第19回	『四篇の綴足』下を読む③（熱田名物の場面） 受講生による発表	
	第20回	『四篇の綴足』下を読む④（一膳飯屋の場面前半） 受講生による発表	
	第21回	『四篇の綴足』下を読む⑤（一膳飯屋の場面後半） 受講生による発表	
	第22回	『四篇の綴足』下を読む⑥（追分の場面） 受講生による発表	
	第23回	『四篇の綴足』下を読む⑦（田舎爺との会話前） 受講生による発表	
	第24回	『四篇の綴足』下を読む⑧（田舎爺との会話後） 受講生による発表	

	<p>第25回 『四篇の綴足』下を読む⑨(狂歌披露の場面) 受講生による発表</p> <p>第26回 『四篇の綴足』下を読む⑩(川口屋休憩前) 受講生による発表</p> <p>第27回 『四篇の綴足』下を読む⑪(川口屋休憩後) 受講生による発表</p> <p>第28回 『四篇の綴足』下を読む⑫(川口屋休憩後) 受講生による発表</p> <p>第29回 『四篇の綴足』下を読む⑬(芝居話の場面) 受講生による発表</p> <p>第30回 『四篇の綴足』のまとめ</p>
授業概要	東花元成著『四篇の綴足』を採り上げ、板本影印資料で読み進める。また、本作品の着想元となった十返舎一九『東海道中膝栗毛』とも比較・検討する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回授業の概要について毎時終了時に触れるので、指定テキストについて事前に読み、難解な部分について抽出しておくこと。事後、発表者の資料を点検し、問題点をまとめておくこと。
テキスト	原文をコピーします
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各回の発表が励みになったとの意見がありましたので、今年も受講生の発表を中心に進めます。卒業研究の指導も併せて行います。
評価方法	授業への参加度(50%)および発表の成果(50%)
参考文献	<p>中山尚夫『十返舎一九研究』（おうふう）</p> <p>芥子川律治『名古屋方言の研究』（泰文堂）</p> <p>野村剛史『日本語スタンダードの歴史—ミヤコ言葉から言文一致まで—』（岩波書店）</p> <p>野村剛史『話し言葉の日本史』（吉川弘文館）</p>
備考	

講義科目名称：国語学演習二（10760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
高橋 永行			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ことばに関するテーマを選定し、グループや全体での共同作業を通して言語研究の方法を実践的に学びます。		
授業計画	第1回	前期 導入	
	第2回	チーム別の企画討論	
	第3回	レッスン1 「しりとり」の言語学	
	第4回	レッスン1 グループ学習	
	第5回	レッスン2 言葉の意味	
	第6回	レッスン2 グループ討論	
	第7回	レッスン3 言葉遊びの言語学	
	第8回	レッスン3 グループ作業と発表	
	第9回	レッスン4 曖昧な文	
	第10回	レッスン4 グループ学習と資料収集	
	第11回	レッスン4 資料整理と発表レジュメの作成	
	第12回	レッスン4 グループ別発表と討論	
	第13回	グループテーマの検討	
	第14回	テーマ別資料収集	
	第15回	グループ間で討論	
	第16回	前期の振り返りと後期の準備	
	第17回	後期 導入	
	第18回	グループ学習	
	第19回	発表用資料の作成	
	第20回	グループ発表	
	第21回	グループ発表の修正	
	第22回	報告書作りの検討	
	第23回	章別割り振りの確認	
	第24回	完成原稿の執筆要項の確認	
	第25回	ページごとの清書と修正	



	<p>第26回 完成原稿の入稿作業</p> <p>第27回 個別研究の発表</p> <p>第28回 報告書の校正作業</p> <p>第29回 一年間の総括</p> <p>第30回 報告書の受け取りと発送</p>
授業概要	演習生をチーム分けし、チームごとおよび全体での討論・作業を体験してことばの研究の基礎を身につけます。言語研究に関する一つの成果を、一冊の報告書にまとめてみましょう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の演習で取り上げられる課題について資料整理をして考えを深めてください。
テキスト	『日本語を分析するレッスン』大修館書店 1, 500円+税 演習開始時に指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参加者の話し合いでグループ別に担当テーマを決め、演習成果報告書を作成したいと思います。同じチームの仲間とお互いのスケジュールを調整し、また助け合って研究を進めるように心がけましょう。
評価方法	演習への参加度、課題の作成内容・チームへの貢献度（100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：文献学演習（10780）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
北口 己津子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	図書館や図書館利用の入り口となる児童サービス、児童サービスに欠かすことのできない情報資源である絵本についての理解をはかり、その中に個々人の問題意識を持つ。その問題意識を深めて卒業論文を書くことを目的とする。		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	文章の書き方、要約の仕方	
	第3回	レポートの書き方	
	第4回	CiNii等の使い方	
	第5回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い①	
	第6回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い②	
	第7回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い③	
	第8回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い④	
	第9回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑤	
	第10回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑥	
	第11回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑦	
	第12回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑧	
	第13回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑨	
	第14回	興味のあるテーマに関して発表および話し合い⑩	
	第15回	前期のまとめ	
	第16回	卒業研究の進め方①テーマの決め方	
	第17回	卒業研究の進め方②スケジュールの立て方	
	第18回	卒業研究の進め方③書き進めるために	
	第19回	文献リストの作り方	
	第20回	卒業研究中間報告①	
	第21回	卒業研究中間報告②	
	第22回	卒業研究中間報告③	
	第23回	卒業研究中間報告④	
	第24回	卒業研究中間報告⑤	

	第25回	卒業研究中間報告⑥
	第26回	卒業研究中間報告⑦
	第27回	卒業研究中間報告⑧
	第28回	卒業研究中間報告⑨
	第29回	卒業研究中間報告⑩
	第30回	1年間のまとめ
授業概要	前期はレポート執筆の基礎と図書館界で話題になっている出来事についてグループ発表を行う。後期は各自の卒業論文中間報告で進める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	予習・復習60分	
テキスト	プリント配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生全員が卒業論文提出を目標とする。卒論は、図書館に関するもの、情報メディアに関するものどちらでもよい。	
評価方法	授業内での活動・個人課題の成果物（卒業論文・卒業制作）（70%）、授業への参加度（発言・教員への質問等）（30%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称：教育文化論演習（10790）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
村瀬 桃子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	教育に関して、まず基本事項をおさえた上で、各個人の興味関心に添いつつ、様々な角度から教育問題を考察できるようにしたい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 1年間のゼミの流れと、前期の確認。	
	第2回	教育学関連基本文献の選定と分担 興味のある文献を持ち寄り、選定。	
	第3回	レジュメの書き方 ゼミの発表資料の書き方について知る。	
	第4回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第5回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第6回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第7回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第8回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第9回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第10回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第11回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第12回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第13回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第14回	文献の講読と発表 文献を分担し、発表する。	
	第15回	文献を分担し、発表する。	
	第16回	オリエンテーション 後期の予定を確認する。	
	第17回	レポート・論文の書き方 短大を卒業する前に、レポートや論文の書き方の最低限のルールを知る（特に卒論・編入希望者は確実に）。	
	第18回	卒論構想発表 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第19回	卒論構想発表 卒論の構想について発表する（卒論希望者）。	
	第20回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第21回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第22回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第23回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第24回	個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。	
	第25回	個人研究発表	

	<p>個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。</p> <p>第26回 個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。</p> <p>第27回 個人研究発表 個人研究の発表を行う（卒論を希望しない者が中心となる）。</p> <p>第28回 卒論中間発表 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。</p> <p>第29回 卒論中間発表 卒論の進捗状況について、報告し、検討する。</p> <p>第30回 まとめ 1年間のゼミのまとめを行う。</p>
授業概要	前期は、教育に関する基本事項をおさえるため、全員で基本文献を読み解いていく。後期は、それぞれの興味関心に添った文献等を読み進めていく予定である（卒論を書く者は卒論の検討を行う）。発表は、基本的に個人とする予定である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	検討文献を必ず前もって読む。発表前に自主的に準備を進めておく。日頃から、教育を中心とした社会問題について関心を持つようにする。
テキスト	授業内に皆で文献候補を検討、決定した文献。絶版の場合はコピー。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミは学生による自治が基本。自ら課題を見つけ、学ぶ能力をつけた人を評価する。
評価方法	発表の完成度（課題設定や分析は適切か等、70%）、演習への参加度（演習中の質問等の発言30%）
参考文献	その都度紹介する。
備考	

講義科目名称：書道（10800）

授業コード：10801 10802

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	4	選択・教職必修（教科：国語）
担当教員			
我彦 芳柳			
開放(教養)			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 楷書・行書・草書・隸書・仮名の代表的な古典を臨書し、学内展示作品を作成 2. 篆書を学び雅印作成 3. 国語科の書写指導に必要な実技 4. 現代の書・生活の書・実用書の作成
授業計画	<p>第1回 用具・用材について</p> <p>第2回 楷書の基本用筆確認</p> <p>第3回 書写から書道入門</p> <p>第4回 漢字の変遷と書体・楷書の成立</p> <p>第5回 唐の四大家を学ぶ（1）孔子廟堂碑</p> <p>第6回 唐の四大家を学ぶ（2）九成宮醴泉銘</p> <p>第7回 唐の四大家を学ぶ（3）雁塔聖教序</p> <p>第8回 唐の四大家を学ぶ（4）顔氏家廟碑</p> <p>第9回 北魏の書を学ぶ（1）牛けつ造像記</p> <p>第10回 北魏の書を学ぶ（2）鄭羲下碑</p> <p>第11回 楷書の小階 隅寺心教</p> <p>第12回 楷書の小階 隅寺心教</p> <p>第13回 行書の特徴を学ぶ</p> <p>第14回 行書の古典を学ぶ（1）蘭亭序</p> <p>第15回 行書の古典を学ぶ（2）争坐位文稿</p> <p>第16回 篆書を学ぶ 泰山刻石</p> <p>第17回 日本の書三筆三跡を学ぶ</p> <p>第18回 仮名の用筆法を学ぶ</p> <p>第19回 平仮名と変体仮名を学ぶ</p> <p>第20回 平仮名と変体仮名の単体・連綿を学ぶ</p> <p>第21回 仮名の古典を学ぶ（1）高野切第三種</p> <p>第22回 仮名の古典を学ぶ（2）高野切第一種</p> <p>第23回 仮名の古典を学ぶ（3）寸松庵色紙</p> <p>第24回 学内展示作品仕上げ</p>

	第25回 草書を学ぶ 真草千字文 第26回 隷書を学ぶ 第27回 漢字仮名交じりの書を学ぶ 第28回 学内展示作品の鑑賞 第29回 手紙文・実用書を学ぶ 第30回 書道史年表中心にまとめ
授業概要	漢字・仮名の変遷成立の理解を深め、基礎的実技能力を養う
実務経験及び授業の内容	書道教室での実務経験及び小中高の書道展での審査経験を生かし、作品制作の指導を行う
時間外学習	休日等を利用し、美術館・博物館・展覧会等の鑑賞に行くこと
テキスト	必要に応じてプリント配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1. 実技を中心とする積み上げ学習なので、講義を欠席しないこと。 2. 学内展示作品（修了作品）作成に費用2,500円位必要です。
評価方法	1. 作品の評価 2. 授業の参加度 3. 学内展示作品の作成
参考文献	古典法帖
備考	①書道道具(既存の物で可)を1回目から持参下さい ②用具・用材はさわらび利用

講義科目名称：伝統文化論（10910）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩原 真代			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	平安時代の生活文化や風俗、習慣を通して『源氏物語』などの文学作品の成立背景を理解する。現代とは相似点も相違点もある平安貴族のあり方と文学の発想を学ぶ。また、現代まで続く伝統文化の一例として、茶道の歴史と文化を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 伝統文化論導入</p> <p>第2回 桜の文学史（古典文学）</p> <p>第3回 桜の文学史（近現代文学）</p> <p>第4回 平安時代の儀礼と儀式文化</p> <p>第5回 平安時代の音楽―雅楽の世界―</p> <p>第6回 平安時代の音楽―雅楽の種類―</p> <p>第7回 平安時代の音楽―神楽歌・催馬楽―</p> <p>第8回 平安時代の音楽と文学―『源氏物語』における音楽の機能―</p> <p>第9回 平安京と内裏の構造</p> <p>第10回 平安貴族の生活信条―九条殿遺誠―</p> <p>第11回 平安貴族の生活信条―寛平御遺戒―</p> <p>第12回 伝統文化の継承と展開―茶道について―</p> <p>第13回 茶道の歴史</p> <p>第14回 茶道の歴史と文化</p> <p>第15回 茶道と文学</p>
授業概要	参考文献や配布資料を用いて、『源氏物語』を中心とした平安文学に見られる文化、音楽、教養、住環境、生活文化などから日本の伝統文化の基盤を理解します。また、伝統文化の継承のあり方として、茶道の歴史と文化を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から日本の伝統文化に関する書物を読み、年中行事などに親しんで、教養を深めて下さい。
テキスト	プリントを使用する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『源氏物語』などの古典文学や資料を読解するためには、平安時代の習俗の知識や当時の感性を理解することが必要です。知りたい、という意欲を持って臨んでください。特に平安文学を専攻する方は履修することが望ましいです。
評価方法	授業への積極的な参加の度合い（10%）、レポート（90%）等を以て評価する。
参考文献	小町谷照彦・倉田実編『王朝文学文化歴史大事典』笠間書院 山中裕・鈴木一雄編『平安時代の信仰と生活―平安時代の文学と生活―』至文堂 『新編日本古典文学全集 源氏物語①～⑥』小学館 桑田忠親『日本茶道史』河原書店 ほか
備考	



講義科目名称：有職故実（10920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
鈴木 眞弓			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	有職故実とは、かつて公家や武家を実習してきた儀式や行事のありようを追求する学問である。この、有職故実を理解することなしに、公武にかかわる文学や歴史を理解することはできない。本講義では、様々な儀式・行事に伴う、日本の伝統的な装束の実物（男子の束帯・女子の十二単等）を示し、古典に現れる装束を明らかにし、日本人の美意識にせまってみよう。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 有職故実と衣紋①</p> <p>第3回 有職故実と衣紋②</p> <p>第4回 有職故実と衣紋③</p> <p>第5回 有職故実と衣紋④</p> <p>第6回 有職故実と衣紋⑤</p> <p>第7回 高倉流故実について①</p> <p>第8回 高倉流故実について②</p> <p>第9回 高倉流故実について③</p> <p>第10回 山科流故実について①</p> <p>第11回 山科流故実について②</p> <p>第12回 山科流故実について③</p> <p>第13回 着身体験①</p> <p>第14回 着身体験②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	配布資料を用いて、着装とその歴史、現在の関わりを中心に講義を行う。授業終盤で装束を着用してもらう。
実務経験及び授業の内容	衣紋の指導についての実務経験を生かして授業を行う。
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴等を通じて、この授業のテーマについて考えること。
テキスト	プリントを配布。 （参考書） 有職故実日本の図典—服装と故実—（鈴木敬三：吉川弘文館）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	装束を着装することから、時代意識を身を持って体感してください。
評価方法	レポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：民俗学概説(国) (10930)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、韓国の民俗文化をテーマとして取り上げ、その諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	比較民俗学	
	第4回	韓国と儒教社会	
	第5回	韓国の親族組織	
	第6回	韓国の祖先祭祀	
	第7回	韓国の通過儀礼	
	第8回	韓国の年中行事	
	第9回	韓国の衣食住	
	第10回	韓国の民間信仰	
	第11回	韓国の民俗芸能	
	第12回	韓国の生業	
	第13回	韓国の宗教	
	第14回	韓国の伝統的町並み	
	第15回	日本・朝鮮半島・琉球列島の比較民俗	
授業概要	民俗学で扱う内容のうち、本講義では韓国における民俗文化を、日本の民俗文化と比較しながら講義を展開する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各地の博物館や資料館には、民具などの民俗学に関わる資料などが、しばしば展示されています。休日を利用して、それらの展示を観覧する習慣を身につけてください。		
テキスト	特に使用しないが、安宇植『アラン岬の旅人たち 聞き書朝鮮民衆の世界』平凡社、岩鼻通明『韓国・伝統文化のたび』ナカニシヤ出版、に加えて、付属図書館所蔵の民俗学関係の図書を参照のこと。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。柳田国男らの基本的な文献は文庫本で出ている。板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい。		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート（出典は必ず明示すること）を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：山形の文学（10950）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
梅津 保一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	山形文学の分野は、小説、随筆、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学、童謡と多岐にわたる。山形の文学は、豊かな自然、風土、歴史と切り離しては考えられない。資料と解説により、山形県の自然、風土、歴史への関心と理解を深め、豊かな創造力を育む。		
授業計画	第1回	山形県の歴史と文化	
	第2回	歌枕としての最上川	
	第3回	『義経記』に見る最上川	
	第4回	最上川と松尾芭蕉	
	第5回	『日本永代蔵』にみる酒田	
	第6回	大久保利通、正岡子規と最上川	
	第7回	幸田露伴、大橋乙羽、田山花袋と最上川	
	第8回	河東碧梧桐、阿部次郎と最上川	
	第10回	井上ひさし	
	第11回	土門 拳	
	第12回	藤沢周平	
	第13回	山形の児童文学	
	第14回	山形の詩人たち	
	第15回	外国人の描いた山形	
授業概要	『山形の文学』について、各ジャンルの代表的作品を取り上げ講義します。		
実務経験及び授業の内容	山形県地域史研究協議会会長、朝日アウトドア教養講座講師として、地域史や「おくのほそ道」に関する講座を行った経験を生かし、授業を行いたい。		
時間外学習	現地に行き、「歩く見る聞く」体験をしてほしい。		
テキスト	『やまがた文学の世界』（プリント）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生の興味を引くような題材をとりあげながら講義をすすめたい。		
評価方法	講義の感想メモ（毎回）、レポート「歩く、見る、聞く 山形の文学」、読書感想文の成績を総合的に評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：東洋思想（10960）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。</p> <p>この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>第1回 日本語の中のインドの言葉</p> <p>第2回 七福神の成り立ち</p> <p>第3回 カレーライスの歴史</p> <p>第4回 無常について</p> <p>第5回 苦と解脱</p> <p>第6回 善悪の基準</p> <p>第7回 業と来世</p> <p>第8回 世界の始まりと終わり</p> <p>第9回 先祖と神仏</p> <p>第10回 愛と慈悲</p> <p>第11回 心とは何か</p> <p>第12回 身分と差別</p> <p>第13回 議論と論理</p> <p>第14回 仏教と女性</p> <p>第15回 家族のあり方</p>
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回まで考えてきて、出席カードに書いてもらいます。優れた回答は発表します。
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思います。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思っています。
評価方法	毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
備考	第1回は休講になり、その分の補講を夏休みに行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
村瀬 桃子			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 現代における子ども・若者の問題や、教育問題について知る。</p> <p>2. 2回の発表を通して、各自の興味のある問題について深く考え、自分の意見を伝える。</p>		
授業計画	第1回	オリエンテーション この講義の内容について、説明する。	
	第2回	貧困問題と教育 「相対的貧困率」をキーワードに、子どもの貧困問題について、現実を知り、どのような対策が必要か考える。	
	第3回	奨学金の問題 主に大学生の奨学金の問題について、当事者として現状を知り、将来の奨学金制度をどうしていくべきか考える。	
	第4回	若者の進路の問題 若者（主に大学生・短大生）の進路について知る。実際先輩の声（手記）を読むことで、近い将来の就職活動に備える。	
	第5回	障がいをもつ子どもたちの就労問題 障がいを持つ子どもの就労問題について、現実と課題を知る。	
	第6回	発達障がいの子どもたち 発達障がいとは、どのような特徴があるのかを知り、すべての子どもの学ぶ権利を保障するための手立てを考える。	
	第7回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第8回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第9回	個人発表（新聞記事から気になる話題を発表） 自分の興味のある記事を掘り下げ、パワーポイントで発表する。	
	第10回	罪を犯した少年たち 少年犯罪は実際のところ、増え続けているのか、凶悪化しているのか。そして罪を犯した少年はどのような矯正教育を受けているのかについて知る。	
	第11回	児童虐待の問題 年々増加しているといわれている児童虐待であるが、虐待された子どもを保護して終わりではない。保護されてからも、長い道のりであることを知る。	
	第12回	幼児期の子ども 待機児童問題など、保育の「質」より「量」に目が向きがちだが、子どもたちに豊かな保育環境を整えるためには「質」の保証が欠かせない。ある園の保育内容を見ることで、子どもの育ちには、何が必要かを考える。	
	第13回	いじめの問題 毎年のようにいじめによる自殺という痛ましい事件が起こっている。そもそもいじめはなくせるのか。ゼロにできなくても減らすことはできないのか。現場の取り組みを知り、考える。	
	第14回	発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。	
	第15回	発表（テーマ自由） 授業で取り上げたテーマでも、それ以外でも、教育・子ども・若者の問題に関わることについて、興味のあることをパワーポイントで発表する。	
授業概要	ドキュメンタリー番組等を見ることで、現代の教育問題についてまず現状を知る。興味関心のあるテーマを調べ、パワーポイントを用い2回発表する（中間・最終）。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュース等を通じ、日頃から教育問題、子ども・青少年問題に関心を持つようにする。発表に向けて、自主的に準備を進めておく。		
テキスト	毎回、プリントを配布、テキストは使用しない。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ新しい動きを取り上げたい。授業は考える「きっかけ」。現代の様々な教育問題に対する解決法に明確な「正解」はおそらくない。だからこそ各自で考え、発信できるようにしたい。		
評価方法	毎回の感想（20%）と発表内容（2回分50%）、レポート（30%）で評価する。		
参考文献	参考文献等は、その都度紹介する。		
備考			

講義科目名称：英米文化論（11110）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 亜希			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。 2. 英米文化を学ぶ上で重要な概念についての理解を深める。 3. 様々な文化表象を手がかりに、英語圏の文化を読み解く方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー「文化」とは何か</p> <p>第2回 英語</p> <p>第3回 キリスト教</p> <p>第4回 民主主義</p> <p>第5回 資本主義／「個人」の誕生</p> <p>第6回 国民国家／帝国主義</p> <p>第7回 ジェンダー／セクシュアリティ</p> <p>第8回 絵画と建築ー英国の風景画と庭</p> <p>第9回 〈人種〉の表象（1）</p> <p>第10回 〈人種〉の表象（2）</p> <p>第11回 音楽ー大衆音楽と公民権運動</p> <p>第12回 映画（1）ー映画の構造分析</p> <p>第13回 映画（2）映画にみる「文化」</p> <p>第14回 新自由主義における〈労働〉と〈コミュニケーション〉</p> <p>第15回 まとめーレポートの書き方について</p>
授業概要	前半（第1回～第7回）は、英米文化を読み解くためのキーワード（基本概念）を中心に考察し、後半（第8回～第15回）は、絵画、音楽、建築、映画等の具体的な表象を分析しながら、イギリスとアメリカの文化の構造を読み解いていきます。また、毎回リアクション・ペーパーを利用し、授業の質問に答えます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で扱うキーワード（基本概念）を辞書やインターネットを活用して調べておくこと。
テキスト	参考資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の関心を引くように、身近な事例を取り入れながら講義を進めていきたいと思ひます。</li> <li>・扱うキーワードを辞書やインターネットで調べてから授業に臨むと理解が深まります。</li> <li>・受講生の理解・関心に応じて、進度・内容は変わることがあります。</li> </ul>
評価方法	レポート（100%）。授業回数の3分の2以上の出席が条件です。
参考文献	参考書を適宜紹介します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎（21） 山田 彩起子（22）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	近世文書で使われる書体の読解力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。		
授業計画	第1回	くずし字読解のためのガイダンス、クラス分け	
	第2回	江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）	
	第3回	女今川を読む－「かな」の練習（2）	
	第4回	ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（3）	
	第5回	江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（4）	
	第6回	手代の式目を読む－「かな」の練習（5）	
	第7回	小まとめ	
	第8回	宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）	
	第9回	交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）	
	第10回	交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）	
	第11回	交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）	
	第12回	離縁状を読む	
	第13回	結婚・離婚に関する文書を読む	
	第14回	奉公人請状を読む	
	第15回	借用証文を読む	
授業概要	近世文書のコピー版を配布し、受講生が各自判読し、板書する。板書された判読結果に朱を入れ、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。		
テキスト	プリントを配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。		
評価方法	期末試験。全体で3問。1問は初見のかな文字。2問はテキスト終了範囲から1問。3問はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史概説一（11130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。それによってより深く古代史を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古代国家の誕生</p> <p>第2回 古代国家の構造</p> <p>第3回 古代の都の誕生</p> <p>第4回 古代の都の源流</p> <p>第5回 天皇号の誕生</p> <p>第6回 日本国号の成立</p> <p>第7回 アジアとの交流</p> <p>第8回 飛鳥の都</p> <p>第9回 アジアの都</p> <p>第10回 律令国家の特質</p> <p>第11回 藤原京</p> <p>第12回 平城京</p> <p>第13回 桓武天皇の都</p> <p>第14回 東北地方の支配</p> <p>第15回 古代都市から中世都市へ</p>
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史などいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	



講義科目名称：日本史概説二（11140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
藺部 寿樹			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本中世史の基礎的な知識を得ること。 2. 現代に立脚して長いタイムスパンで歴史をとらえる眼を養い、歴史的な思考方法を会得すること。		
授業計画	第1回	中世とは何か	
	第2回	中世の権力者と天皇	
	第3回	中世の権力者と天皇	
	第4回	中世人の食生活	
	第5回	中世人の食生活	
	第6回	中世民衆の身分と名前	
	第7回	中世民衆の身分と名前	
	第8回	中世人の経済観念	
	第9回	中世人の経済観念	
	第10回	中世人の時間観念	
	第11回	中世人の時間観念	
	第12回	中世法の特質	
	第13回	中世法の特質	
	第14回	中世の刑罰と社会	
	第15回	中世の刑罰と社会	
授業概要	通常の概説のように時系列を重視するのではなく、研究上の問題点や興味深い話題を提供する形で講義をします。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義後、レジュメに示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	必要に応じて、プリントや参考資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方通行とならない講義を心がけますので、積極的に授業に参加してください。また毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。		
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）		
参考文献	毎回、講義内容に即した参考文献を示します。		
備考			

講義科目名称：日本史概説三（11150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代社会を理解する上で歴史的なものの見方が欠かせないことを理解できるようになる。 2. 問題に関心を持って日本史を考えることができるようになる。
授業計画	<p>第1回 日本近世史とは何か</p> <p>第2回 世界のなかの近世日本（1） 東アジアのなかの日本</p> <p>第3回 世界のなかの近世日本（2） 北方世界と近世日本 蝦夷地を取りまく世界</p> <p>第4回 近世の支配体制</p> <p>第5回 近世の統治の思想</p> <p>第6回 近世の民衆運動（1） 百姓一揆の結合原理</p> <p>第7回 近世の民衆運動（2） 百姓一揆を支える社会規範</p> <p>第8回 近世の文字と社会</p> <p>第9回 近世の人びとの読み書き能力</p> <p>第10回 鎖国観念の成立</p> <p>第11回 近代以前の日本の境界と国境</p> <p>第12回 近世の村の自治をめぐる</p> <p>第13回 近世の村の掟と刑罰</p> <p>第14回 近世の郡中議定と地域社会</p> <p>第15回 近世の自然と社会</p>
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点や近年注目されているトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の理解度をはかるために、質問用シートを何回か提出してもらいます。
評価方法	期末レポート80%、質問用シートによる評価20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本文化史（11160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。
授業計画	<p>第1回 史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？</p> <p>第2回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第3回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第4回 稲作の起源と日本人起源論</p> <p>第5回 柳田國男と日本民俗学（ビデオ）</p> <p>第6回 いくつもの日本（東と西の日本文化）</p> <p>第7回 いくつもの日本（北と南の日本文化）</p> <p>第8回 日本国の成立と「日本人」</p> <p>第9回 伊波普猷と沖縄学（ビデオ）</p> <p>第10回 被差別と伝統文化</p> <p>第11回 都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）</p> <p>第12回 国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）</p> <p>第13回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第14回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第15回 日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）</p>
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること
テキスト	すべてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。
評価方法	数回(6回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。
参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。

講義科目名称：コミュニケーションデザイン論（11170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガを中心にアニメを含めた視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガと教育</p> <p>第3回 マンガの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、さらに実際の作品分析をワークショップ形式で行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40％、期末レポート60％。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	